

for you, for the earth

あなたのために、地球のために。



住友ゴムグループ

 住友ゴム工業株式会社
SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町3-6-9

広報部
TEL.078-265-3004 FAX.078-265-3113

CSR推進室
TEL.078-265-3001 FAX.078-265-3114

<http://www.srigroup.co.jp/>



2013.6 ※ 222

住友ゴムグループは
 タイヤ、スポーツ、産業品の分野における
 真に価値ある企業として
 社会への貢献を果たしていきます。

持続可能な社会の実現に向けて、私たちにできること。
 それは、地球環境への配慮と安全・安心を両立する
 高品質な商品の提供と日々の事業活動を通じて
 世界の人々にとって快適で魅力ある新しい生活価値を創出すること。
 人と地球にとって真に価値ある存在であり続けることこそが
 私たち住友ゴムグループの目指すCSR経営です。

Contents

03 理念体系
 住友ゴムグループの理念とCSRの考え方
 住友ゴムWAY / CSR活動基本理念 / 長期ビジョン行動イメージ

05 重点報告

Report.1	Green (緑化)	緑化整備によってよみがえったお須原山
Report.2	Ecology (事業活動の環境負荷低減)	タイ新工場における完全ゼロエミッション達成に向けた取り組み
Report.3	Next (次世代型技術・製品の開発)	「4D NANO DESIGN」の進化による環境配慮タイヤ用途の拡大
Report.4	Kindness (人にやさしい諸施策)	人にやさしく夢をかたちに
Report.5	Integrity (ステークホルダーへの誠実さ)	マレーシア スンガイベタニ川の水質浄化活動

15 トップコミットメント
 未来に向けた新しい価値を生み出すために

17 CSR活動報告

17 Green(緑化)
 ▶ 森づくりを通じた地球温暖化防止と地域との交流

19 Ecology(事業活動の環境負荷低減)
 ▶ CO₂排出量の低減
 ▶ 循環型社会の形成
 ▶ グローバル環境経営の推進

25 Next(次世代型技術・製品の開発)
 ▶ 環境配慮商品の開発
 ▶ 「安全・快適」「経済性」「品質」の追求

27 Kindness(人にやさしい諸施策)
 ▶ 人材育成と働きがいの向上
 ▶ 安全で働きやすい職場づくり
 ▶ ワークライフバランスの推進

31 Integrity(ステークホルダーへの誠実さ)
 ▶ コーポレート・ガバナンスの充実
 ▶ コンプライアンスの徹底
 ▶ ステークホルダーとの対話促進
 ▶ 社会貢献活動の推進

37 サイトレポート

41 ステークホルダー オピニオン

41 ステークホルダー ダイアログ
 45 第三者検証報告書
 46 第三者意見

47 基本事項

47 読み方ガイド
 49 住友ゴムグループCSR報告書2013概要
 50 住友ゴムグループの事業展開

住友ゴムグループ
 タイヤ事業



スポーツ事業



産業品・その他事業



住友ゴムグループの 理念とCSRの考え方

住友ゴムグループは、1909年に我が国初の近代ゴム工場として創業して以来、
変革と挑戦の歴史のなかで常に魅力のある商品の提供に努めてきました。
そのバックボーンとなっているのは、住友の歴史のなかで長く受け継がれてきた「住友事業精神」と
「ダンロップが培ってきた先進性」、「住友ゴム独自の自由闊達さ」です。
「住友事業精神」には「住友の事業は住友自身を利するとともに、国家を利し、
社会を利する事業でなければならぬ」という社会に対する強い使命感がこめられており、
当グループの企業理念のベースとなっています。
そして、この「住友事業精神」を全うすることこそが、
当グループにとってのCSR(企業の社会的責任)であると考えています。

住友事業精神

信用確実 人間尊重 技術重視 社会への貢献

住友ゴムWAY

創業100周年を迎えた2009年、これからの100年をこれまで以上に発展させていくために住友ゴムグループとして大事にしたい価値観と行動原則を誰の目にも見え、体系だてて理解できるよう「住友ゴムWAY」として整理・集約しました。海外拠点の増加など、事業の広がりやグループ規模の拡大にともなって多様な価値観を持つ人たちが当グループの事業活動に携わるようになるなか、「住友ゴムWAY」として、従業員の行動や判断のベースとなる共通の価値観や考え方、仕事の進め方を共有することがグループ全体の結束力を高め、世界で安定した製品・サービスを提供し続けるために必要不可欠であると考えています。こうした価値観や行動原則をあらためて企業風土のなかに根づかせていくことでCSR活動を活性化させ、社会から信用される企業グループを目指していきます。

企業理念 私たち住友ゴムグループは、企業の社会的使命を果たすために、グループ全社員の幸せを追求し、広く地域・社会に貢献し期待され信頼されるグローバルな企業として、快適で魅力ある新しい生活価値を創出し続けます。

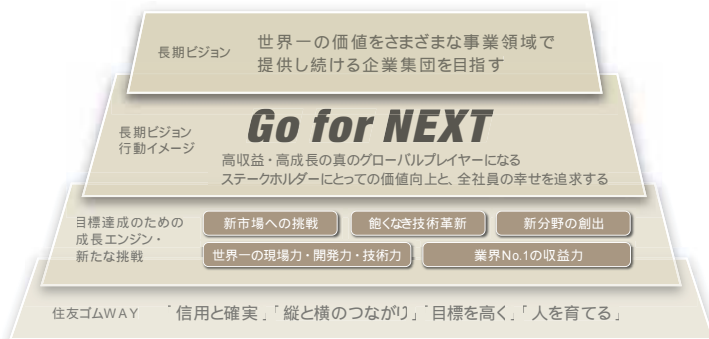
現地現物主義に立って、お客様の期待に応え、よりよい製品を責任を持って提供します。
堅実な経営基盤をもとに時代の変化に柔軟に適応し、新しい時代を切り開きます。
独自技術および研究開発を充実させ新たなニーズを積極的に開拓します。
地球環境に責任を持った企業活動と環境に優しい技術開発を進めます。
「魅力ある職場環境」と「ゆとりある生活」を創出します。

価値観	信用と確実	縦と横のつながり	目標を高く	人を育てる
行動原則	お客様第一 科学的アプローチ 継続的改善	人に関心をもち、お互いを知り合う 対話によるコミュニケーション 部門を越えた報連相	常に問題意識を持つ ベンチマークする	仕事を通じて指導する チームで仕事の 成果をあげる

CSR活動基本理念

長期ビジョン行動イメージ

2012年、私たちは、「GO for NEXT」を新たなスローガンに、2020年を目標年度とする住友ゴムグループの新たな長期ビジョン「VISION 2020」を策定しました。この「VISION 2020」のもと、これまでの「世界一の価値」に加えて「新たな挑戦」を行うことにより、「高収益・高成長の真のグローバルプレイヤー」を目指すとともに、「ステークホルダーにとっての価値向上と、全社員の幸せを追求」することにより、企業の社会的責任を果たしてまいります。



CSR理念 住友ゴムグループは、地球環境や社会をGENKIにする活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献し、社会から信用される企業グループを目指します。

CSRガイドライン

Green Green initiative

- ① 森づくりを通じた地球温暖化防止への貢献
- ② 森づくりを通じた地域との交流

Ecology Ecological process

- ③ CO₂排出量の低減
- ④ グローバル環境経営の推進

Next Next-generation product development

- ⑤ 環境配慮商品の開発
- ⑥ 「安全・快適」「経済性」「品質」の追求

Kindness Kindness to employees

- ⑦ 人材育成と働きがいの向上
- ⑧ 安全で働きやすい職場づくり
- ⑨ ワークライフバランスの推進

Integrity Integrity for stakeholders

- ⑩ コーポレート・ガバナンスの充実
- ⑪ コンプライアンスの徹底
- ⑫ ステークホルダーとの対話促進
- ⑬ 社会貢献活動の推進

環境保全を 最重要課題と位置づけて 「エコ・ファーストの約束」を推進

住友ゴムグループは、地球環境への取り組みを経営上の最重要課題の一つとして位置づけています。2009年3月、当グループは、環境省が創設した「エコ・ファースト制度」に基づき、環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を取り交わしました。この約束は、ほぼ達成できましたので、このたび、2012年3月に新たな「エコ・ファーストの約束(更新書)」を環境大臣と取り交わしました。



環境トップランナー企業の環境保全に関する行動をさらに促進していくために、企業が環境大臣に対して京都議定書目標達成に向けた地球温暖化防止対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束します。



お須原山は標高419m、面積約2ヘクタール。愛知高原国立公園の一部ともなっています。名古屋工場が地元とともに「GENKIの森」整備活動を推進中で、2013年3月17日には4回目となる植樹に50余名(地元住民半数)が集まりました。



工場敷地で押し木により増やしたアサギヤウツジのほか、コキヤナギやカタクリなど406本の苗木を1本1本植えました。

重点報告
Report.1
緑化
Green
Green initiative



工場のGENKIチームが山頂を拓き、地元の皆さんと一緒に山道を整備してきたが、植樹によってさらに緑が広がっています。



この日は、黒山村との交流を求める市外からの参加者の一行も、地域の自然を育む活動は着実に広がっています。



皆で話し合い、季節の花が楽しめる自然公園を目指すことに決定。植樹にも思いがこもります。

各事業所における地域との交流



宮崎工場 ビオトープに地元産魚によるメダカの放流など、地域とともに取り組んでいます。



市島工場 エサの工ノ手育てで、国産オムラサキを繁殖させ、地元産魚などと見学会を開いています。



白河工場 手づくりのビオトープでホウキを育成し、見学会で地域との交流を深めています。



神戸本社 地元の女子高生がどんぐり苗の育成や植樹に参加、取り組みの輪を広げています。

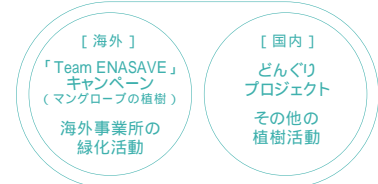
森づくりを通じた地域との交流

緑化整備によって
よみがえった
お須原山

住友ゴムグループは、国内外において、100万本の郷土の森づくりプロジェクトを中心とする緑化活動に力を注いでいます。緑化活動は、「CO₂削減への貢献」のみならず、「植樹による土砂災害の防止」や「生物多様性保全への貢献」、さらに「地域との交流」という多様な目的をもちます。山の緑化整備を通じて、地域の人々との深い交流が育まれた事例を報告します。

100万本の郷土の森づくりプロジェクト

2009年度から20年間で世界に100万本の木を植える「郷土の森づくり」を実施。計画をはるかに上回るペースで植樹が進み、すでに計画は200万本に上方修正されています。(詳細は、P17をご覧ください)



【海外】天然ゴムの生産地であるタイでマングローブの苗木を植樹する「Team ENASAVE(チーム・エナセーブ)」キャンペーンをはじめ、世界各地の生産・営業拠点で植樹活動を推進。

【国内】「未来を植えるどんぐりプロジェクト」産土台に全国各地の「住友ゴムGENKIの森」で植樹活動を進め、地域で培った苗木により各地域の生物多様性の保全を図る。



生まれ変わった山
深まる地域交流

鬱蒼とした草木に覆われていた山腹は美しく間伐され、貴重な植生やユニークな形の岩の景色を活かした、遊歩道も設けられました。過疎や高齢化などに山の再生を阻まれていた地元の人々の喜びは大きく、2012年3月から山での地域交流が始まりました。とにも山道の整備や植樹に取り組み、作業後は麓の公民館でふるまわれる手料理に舌鼓を打つことも恒例に、地元の小中学生を山に迎えたり、逆に盆踊りなど地域の行事に招かれたりと、交流はますます深まっています。



地元の小学校では、総合学習の一環でお須原山を訪ね、山道の整備や植樹を通して、身近な自然の大切さを学びました。

維持管理に向けて
広がる活動の輪

基盤整備が一段落したお須原山ですが、維持管理の手をゆるめれば、たちまち荒れ山へと戻ります。そこで今後は、地元主体の維持管理活動を支えたいと考えています。

折しも、2013年7月28日には、山頂の御嶽(おくわ)神社で13年に一度の祭礼が催されます。山が再生され、麓にある13の字(あざ)では祭りへの気運が高まっています。こうした山への愛着を求心力に、地域と手をたずさえて、緑化活動が根付き、ふれあいの輪が大きく広がっていくことを願っています。



麓の13の字の一つ、東萩平の公民館前に集い、植樹に参加した皆さん。作業後の食事会も恒例となり、毎回盛り上がりです。

お須原山との出会い
悪戦苦闘の整備活動

住友ゴム工業名古屋工場では、敷地内でどんぐりから育てた苗木を提供するなど、緑化を通じた地域交流を活発に行っています。そうした活動を続けるなかで、2010年、豊田市内に荒れた里山があることを知り、地元を訪問。「お須原山愛好会」との交流が始まりました。そして同年6月、お須原山を「GENKIの森」として5年間お借りし、整備する活動がスタートしたのです。

とはいえ、当社従業員によるチームは山の

素人。急な傾斜、蜂・毒蛇、夏の炎暑・冬の寒風など、作業は困難を極めました。それでも1年半に及ぶ努力の結果、不可能にも思えた山の整備は見事に実を結んだのです。



正に悪戦苦闘の連続。切り株だけが残ったような地面すらずれて木を伐採するため、土で崩れが、その手入れも大変でした。

地域の方々との触れ合いは、なによりの宝

(左)名古屋工場総務担当 倉島 貞夫

最初に地元の方々にお会いして山を案内していただいた時、皆さんの純真なお人柄に魅せられました。実は整備活動はまだ検討段階だったので、その場で「やらせてください」と志願した次第です。直感した通り活動は本当に楽しく、地域の一員として汗を流し続けたいという思いがますます募っています。



これからも、ぜひ末永い交流を願って

(右)東萩平町町長 近藤 正臣さん

山の整備は地域の念願で、町を出た人からも会費を募り山の伐採などに充てていましたが、人手も資金も足らず難航していました。そこに住友ゴムさんが現れ、荒れ山をみるみるきれいにしてくれました。今では子どもたちにも活動が広がり、故郷を思う心が育っています。今後も末永い交流を願ってやみません。



村のお祭りに参加して、STECの環境への取り組みを地域住民の方に説明しました。



多くが農家出身の現地従業員たち。環境に対する取り組みの重要性を、一つずつ、そして楽しく学んでいきました。



アンケートに協力してくれた地域住民の方々。

重点報告
Report.2
事業活動の環境負荷低減

Ecology

Ecological process



パネルやテキストを使用して真剣に行われた勉強会。



現場で行われた4Sの訓練。



2013年からは、タイの全国環境活動にも参加。



毎朝の朝礼で行っている品質・環境・安全に関する唱和。

グローバル環境経営の推進

タイ新工場における完全ゼロエミッション達成に向けた取り組み

住友ゴムグループは、2010年3月に国内外の主要製造拠点で完全ゼロエミッションを達成。その後新たな拠点でも、完全ゼロエミッションを達成してきました(詳細P21)。その一つが、タイの天然ゴム加工工場(STEC)です。グループ内では幾度も繰り返されてきた挑戦ですが、現地従業員たちにとっては全く初めての経験。2012年2月、初心の意気込みに溢れながら、目標達成に向けて全社一丸となったプロジェクトがスタートしました。



タイ王国

多くが農家出身の従業員 ゼロからのスタート

当グループは、ISO14001のグローバル統合認証の維持と、主要製造拠点すべてにおける完全ゼロエミッションの達成に努めています(詳細P23)。タイの新工場STECでも、ISO14001の認証取得とともに、完全ゼロエミッションは必達の目標となりました。

しかし工場周辺は、住友ゴム工業も出資する天然ゴムプランテーションなどが広がる農業地帯。地元で採用した従業員の多くは農家出身で、半数以上は会社で働くことも初めてでした。そのため、工場で行うべき環境配慮やゴミの分別回収などについて全く予備知識がなかったのです。活動は文字通りゼロからのスタートとなりました。

まず活動の中心となる環境担当のリーダーたちは勉強を重ね、必要となる知識を習得。環境管理者の免許も取得しました。そして環境関連施設の整備とともに、いよいよ全社での取り組みが始まりました。最大の課題は、「いかに従業員の理解を得るか」です。

繰り返された勉強会 知識と現場訓練の徹底

従業員が身につけなければならなかったのは、環境配慮の意識とそれを現場で実践する習慣です。朝礼と勉強会を二本柱に、繰り返し学ぶことが大切でした。

Sumitomo Rubber Thai Eastern Corporation Co.,Ltd.(STEC)
スミタパー タイイースタンコーポレーション
タイ王国バンコクに2009年設立。
2010年12月には全産量を開採した、天然ゴム加工工場。
従業員数316名。(詳細P39)

朝礼では、品質、環境方針、安全の条項を日々唱和することになりました。最初は皆、貼り出した文字を目で追いかけていましたが、やがて全員が暗唱できるようになりました。勉強会は、独自のテキストをもとに毎回90分ほど実施。時には実地で、ゴミなどの現物も見せながら説明を行いました。特に4S(整理・整頓・清潔・清掃)に関しては、現地現物での訓練を徹底させ、職場対抗の4Sコンテストを企画するなど、楽しく取り組めるよう工夫を凝らしました。

こうして継続した勉強会は10カ月で38回にも及び、従業員の意識と行動は大きく変わりました。そして2012年12月にISO14001の認証を取得。2013年1月には、完全ゼロエミッションを達成したのです。

環境意識を相互に高める 地域住民との交流

STECでは天然ゴムを扱うため、臭気や廃水の対策も欠かせません。これらに対する地域住民の関心も高く、人々から理解を得ることも重要な取り組み課題です。そこで2012年10月、大勢の人が集まる地域のお祭



工場内に立てられた環境活動PRののぼり

もっともっと環境に やさしい工場を目指して!

STEC環境活動のリーダー
Sirinapa Buamee(ニックネーム: Annさん)

ISO14001認証の取得とともに、完全ゼロエミッションの達成と環境への取り組みを進めてきました。特に注意した点は、環境について全従業員に理解してもらうこと。また、STECの活動を広く近隣の皆さんに理解してもらうこと。そのために、全38回の従業員訓練を実施し、近隣の皆さんには環境説明会を開催しました。今後も継続して活動を実施していきます。これからもSTEC全員の力で、今よりもっと環境にやさしい工場になるために頑張っていきたいと考えています。



地域住民の方に、STECの環境への取り組みについてアンケート調査中のAnnさん。

りに参加させていただき、説明会を開きました。2回のイベントでは、お集まりいただいた2町村115名の住民の方々へ、臭気や廃水をはじめ、環境全般への取り組みをご紹介します。同時に、地域の方々との交流を深める良い機会となりました。

今後は、他の近隣4町村に対しても同様の説明会を実施していきます。また、2013年6月を環境月間として、工場見学会や品質・環境展示会などを行い、より多くの地域住民の方々をお招きする予定です。

また、知事を表敬訪問し、環境活動全般について説明しました。県の環境調査官の来訪に際しては詳しい報告に努め、取り組み内容を積極的に報告。役所にも理解を深めていただいています。

STECで取り組まれた環境関連施設の整備



ゴミステーションの建設

2012年8月から環境関連工事を開始。10月には分別回収のためのゴミステーションが完成しました。



工場周辺の排水溝整備

保管している原材料からしみ出す水が外部に流出しないように、排水溝を整備しました。



貯水池の設置

雨季にも排水溝から水が溢れぬよう、水を一且貯留するための貯水池も設けました。



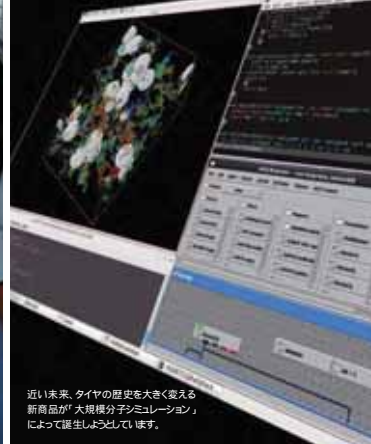
臭気中和ノズルの設置

臭気を知する天然香料が自動噴霧されるノズルが付いたポールを、工場周辺に張り巡らしました。

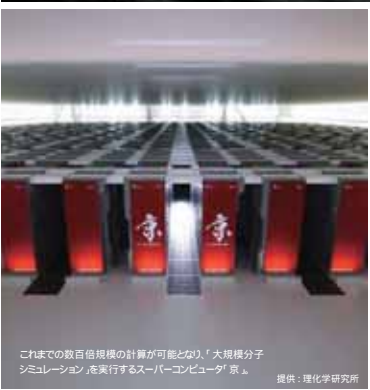
完全ゼロエミッション: 埋立廃棄物量をゼロ、再資源利用率100% / 住友ゴム工業では再資源化目的で処理された廃棄物の全量を再資源化量としています。



カーボンとポリマーの組み合わせなど、かつては不可能だったことがコンピュータ上でシミュレーションできるようになりました。



近い未来、タイヤの歴史を大きく変える新商品が「大規模分子シミュレーション」によって誕生しようとしています。



これまでの数百倍規模の計算が可能となり、「大規模分子シミュレーション」を実行するスーパーコンピュータ「京」

重点報告
Report.3
次世代型技術・製品の開発

N

Next
Next-generation product development



シミュレーション技術がさらに進化しても、人間の発想と志が私たちの技術基盤です。



タイヤはライジングの安全性や快適性を支えています。豪雨や凍結した雪道のテストが実地で試されます。



世界の道路とさまざまな走行シミュレーションを再現した「住友ゴム・岡山タイヤテストコース」



走行中のタイヤの接地状態を地下から観測できる接地面観測ピット。環境配慮タイヤの開発には、素材開発とともにトレッドパターンの開発が欠かせません。



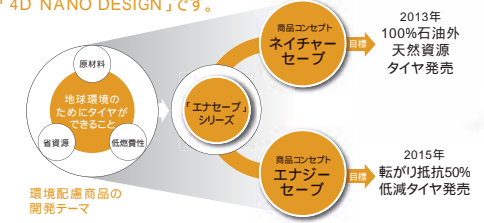
「住友ゴム・タイヤテックセンター」では、試作品をもとに、転がり抵抗や摩擦エネルギーが実際にテストされます。

環境配慮商品の開発

新材料開発技術

「4D NANO DESIGN」の進化による環境配慮タイヤ用途の拡大

住友ゴムグループは、「原材料」「低燃費性」「省資源」という3つのテーマに沿って、環境に配慮した素材で低燃費を実現する次世代タイヤの開発と普及を進めています。その代表ブランドである「エナセーブ」シリーズは、ネイチャーセーブとエナジーセーブをコンセプトに、環境配慮タイヤのラインアップをより幅広い用途に広げ続けています。それを支えているのが独自の新材料開発技術「4D NANO DESIGN」です。



ゴム内部を分子レベルで大スケールかつ忠実に再現するシミュレーション技術

新材料開発技術「4D NANO DESIGN」は、世界最高性能の放射光施設SPRING-8と世界最大規模の計算能力を有する地球シミュレータの連携により、2011年に開発した革新的な技術です。この技術によって、通常の材料開発に用いられる3次元(3D)に時間軸を加えた4つの次元(4D)で解析し、ナノレベル(100万分の1メートル)で分子の構造や性質を自在にコントロールすること

ができるようになりました。シミュレーション領域が格段に広がったことで、画期的な新素材開発の道が開けたのです。



「4D NANO DESIGN」が可能にした環境配慮タイヤの適用カテゴリーの拡大

環境配慮タイヤ普及の鍵は、商品ラインアップの拡大です。しかし、タイヤは用途によって要求性能が異なるため、適用カテゴリーを広げるためには分子レベルから異なる素材開発が必要となるのです。そこに「4D NANO DESIGN」が活かされ、2012年度も新カテゴリーの環境配慮タイヤが誕生しました。

スタッドレスタイヤへの展開 WINTER MAXX

スタッドレスタイヤにとって最も重要なのは、アイスバーンでのブレーキ性能です。そこで「4D NANO DESIGN」によって、氷をナノレベルで徹底研究し、ゴムの特性をシミュレーション。ナノ領域での柔軟性とマクロ領域での剛性を両立した「ナノフィットゴム」を開発し、ダンロップ史上最高の氷上性能を実現しました。左ページ下図参照

トラック・バス用タイヤへの展開 エナセーブ SP68

トラック・バス用タイヤ開発の課題は、大きな荷重への対策です。「エナセーブSP68」は、荷重時の変形を抑え、転がり抵抗を抑制する新パターンを採用。さらに「4D NANO DESIGN」によって、ポリマーとの組み合わせで最適なカーボン構造を持つ新コンパウンドを開発。低燃費性能と耐摩耗性能を高いレベルで両立しました。

スーパーコンピュータ「京」を利用した「大規模分子シミュレーション」が切り拓く環境配慮タイヤの未来

新材料開発を担うシミュレーション技術はますます重要度を増しています。当グループは、「4D NANO DESIGN」のさらなる進化に向けて、世界トップレベルの計算能力を有するスーパーコンピュータ「京」を活用。これまでは再現が困難だったタイヤ用ゴムの内部を、大スケールでしかも分子・ナノレベルで忠実に再現し、解析することが可能となる「大規模分子シミュレーション」の技術開発を2012年9月より進め、2013年3月より開始しました。ここで得られる成果を活用し「ADVANCED 4D NANO DESIGN」として2015年中に確立。2016年以降の新商品に採用する計画です。

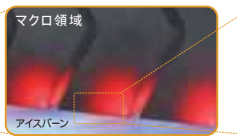
「4D NANO DESIGN」のスタッドレスタイヤへの応用 ナノ領域の柔軟性とマクロ領域の剛性を両立

氷上ブレーキ性能を向上させた強くても柔らかい「ナノフィットゴム」

「ナノフィットゴム」は、高密度シリカと新開発した軟化剤の絶妙な配合により、ゴム全体は強く、接地面だけを柔らかくすることに成功。マクロレベルでのブロック剛性を高め、また、アイスバーンのナノレベルの凹凸にしっかりと密着し、氷上でのブレーキ性能を大きく向上させています。



アイスバーン



マクロ領域

マクロ領域の剛性アップでアイスバーンでのエッジ効果向上



ナノ領域

ナノ領域のゴムの柔軟性で、アイスバーンの凹凸に密着。

「ADVANCED 4D NANO DESIGN」への進化「大規模分子シミュレーション」

タイヤゴム中の素材の「不均一性」や「構造の偏り」を忠実にシミュレーションし、タイヤゴムの性能を予測し、素材設計します。





LYWPは、従業員一人ひとりの「人にやさしく夢をかたちに」の実現を目指すために、さまざまな試みと成果を積み重ねてきました。



人生で大きな比重を占める仕事を好きになることは、幸せへとつながります。



「自分の仕事を好きになってほしい」。そんな思いが活動の原点でした。



目指すゴールは、「人と人がつながってワクワクしている会社」の実現です。



2012年度「語る場」が活動の中心となり、神戸本社では食堂を開放して、話しやすい雰囲気づくりに努めました。

重点報告 Report.4 人にやさしい諸施策 Kindness Kindness to employees



異なる職場の人と出会うことは、自分の仕事を見つめ直すきっかけになります。



世代も職種も超えて、人と人がつながることによって組織の力がさらに膨らみます。



「人にやさしく夢をかたちに」というフレーズは、2008年に公募によって選ばれ、以来LYWPの根幹となっています。



語る場は対話より深める場所です。LYW STYLE活動のチームでの活動を通じて、つながりをさらに強化していきます。



「語る場」などから生まれる「タテ・ヨコ」のつながりは、日々の仕事上の連携もなめらかにします。

Love Your Work! プロジェクト(略称:LYWP)

人にやさしく 夢をかたちに

人と人がつながって
ワクワクする会社を目指して

「LYWP」とは、「人にやさしく夢をかたちに」の実現を目指し2007年度から取り組んでいる草の根活動です。この活動を通じて住友ゴムグループ内の人と人がつながり、一人ひとりの夢が実現できるように、ワクワクする組織を作りたいと考えています。2012年度はコミュニケーションの活性化に焦点をあて、グループを挙げて本格的な取り組みを展開しました。

2012年度に実施された「語る場」

<p>知り合いを増やす</p> <p>神戸・東地区 ランダム語る場</p>	<p>業務に刺激をもたらす</p> <p>神戸地区 部門越え語る場</p>	<p>仲間を知る</p> <p>工場・販売 職場語る場</p>	<p>組織のつながりを強める</p> <p>スペシャル語る場 工場と販売語る場</p>
---	---	-------------------------------------	---

集う。話す。そこから新しい何かが生まれる。異職種の仕事がにつながる機会「語る場」

「LYWP」の一環として2009年度に行ったディスカッション中心の取り組み「LYWPセミナー」は、異なる職種の社員が話し合うことの大切さを教えてくれました。これがきっかけとなり生まれた「語る場」は、普段の仕事ではつながる機会の少ない社員が集い、オープンで自由な会話ができる場。さまざまな価値観を持った人と語り合うなかから、新しい刺激や発想を得ようという試みです。「語る場」での出会いから、社員相互のつながりが大きく広がっていくことも期待しています。



「LYWPセミナー」における語り合いの場を、よりシンプルで誰もが参加できる形に広げていこうという発想から生まれた「語る場」。



社内公募で集まったメンバーによる
真のコミュニケーションについて学ぶ本

「もしコミ」(モシコミ推進委員会・真田いずみ氏がモシコミ推進委員会に任命された)

2011年度には、LYWP推進事務局の発案で、コミュニケーションについて学ぶガイドブックを当時話題の『もしドラ』に倣い小説体で制作。社内公募で集まった社員12人が、専門家の指導のもとに議論を重ね、ストーリーの骨子を作りました。全社員がこれを読み、読後、自分がどう変わったかが2012年度の第1回「語る場」のテーマにもなりました。

「もしドラ」の著者・三浦しづか氏(モシコミ推進委員会)と、モシコミ推進委員会のメンバー(モシコミ推進委員会)



社内公募メンバー12名からなるLYW book制作委員会による打ち合わせ

凝らし、お茶やお菓子を用意したリラックスした「語る場」を目指しました。結果、長期出張などのわずかな例外を除いて全社員が年に2回の「語る場」に参加。事後アンケートでも約9割から好意的な回答が寄せられました。また、語る場リーダー制度は販売や工場にも導入し、全グループを挙げて実施しています。

自分一人ではできなかった活動をチームで実現する「LYW STYLE コンテスト」

「語る場」などから生まれる「タテ・ヨコ」のつながりは、一人ではできない何かへの夢を育み、実現を可能にします。そんなチームの力を支え活動を活かすべく、LYW STYLEコンテストを実施しています。チームによる活動をコンテストで審査し、優れた活動に資金などの援助を行ってきました。2013年度からはより実践を重視し、建屋や工場単位で取り組むチームを対象に審査する方法に改めました。数々のチームが、夢の実現を目指し活動を行っています。



社員をはじめ数多くの社員が登壇するボスターも作成し、全社で盛り上げているLYWP活動。ここからは自発的な活動として定着させていくのが一つの目標です。

1年の活動を総決算、全社が繋がる「LYWP DAY」

2012年度の「LYWP」は、コミュニケーションの活性化を中心テーマに活動を展開。「語る場」で人が集う機会を広げ、「LYW STYLE」活動でチームで協力し合う意識を高めてきました。こうしたLYWPにおける1年間の活動を総決算し、全社でつながって個人・チームの活動を共有するイベントが「LYWP DAY」です。毎年テレビ会議システムで全国20拠点余り結び、「LYW STYLE コンテスト」の結果発表や表彰式などを行って、ワクワクする会社の実現に向け思いを一つにしています。



「LYW STYLE コンテスト」受賞チームの表彰と活動内容の報告が行われました。



活動報告では、技術の伝承活動を開催したタイヤテックセンター若手メンバーによる発表や、地域と地域の子どもたちを元気にする活動などが伝えられ、多くの関心を集めました。





ゴム手袋を生産するマレーシア工場では、製造工程で洗浄用に水の使用が欠かせません。その水の排水浄化は環境活動の重要項目の一つ。現地従業員の間では日頃から水質問題への関心は高いです。

地域で、世界で、実践する社会貢献活動

マレーシア スンガイペタニ川の 水質浄化活動



ケダ州スンガイペタニ市
ケダ州はマレーシアの北西部に位置する農業地帯。スンガイペタニ市は州都に次ぐ第2の都市。マレーシア語でスンガイとは川、ペタニとは農家の意味です。

工夫したのは、活動を楽しめるイベントとして盛り上げることに。会社に協力を仰ぎ、参加者が着用できるポロシャツやポスターをつくるなど、イベント好きのマレーシア人の心に強くアピールしたのです。参加希望者は徐々に増えていきました。

総勢148名が参加
次回につながる大イベントに

“マドボール(泥団子)作戦”と称された河川浄化活動は、プロモーションの甲斐あって総勢148名が参加。従業員とその家族による一大イベントとなりました。

当日は環境省や市の職員も参加。泥団子づくりは、専門家の指導を受けて1人50個ほどを作製。1週間の乾燥後、再び現地に集合し川に投入しました。両日とも、作業はお祭りムード満載。エアロビクスダンスあり、かぶり物のコスチュームあり、テントの下にはケータリングサービスで食事もう用意されました。従業員相互の親睦を深めるという意味でも、意義ある活動となりました。

今後は従業員のみならず、地域の人々に参加の輪を広げながら、マレーシア工場における環境活動の新たな柱としていく計画です。



この活動は、国と地域が推進する川の浄化に企業が正式に参加した初の事例となり、現地ローカル新聞にも紹介されました。こうした報道を通じて、川の浄化に対する市民の関心も少しずつ高まっています。

「広く地域・社会に貢献し期待され信頼されるグローバルな企業として」歩むことを宣言した「住友ゴム企業理念」。その実践に向けて、住友ゴムグループを挙げての取り組みが進み、今では国内外で多様な社会貢献活動が行われています。その一つ、グループで最も歴史ある海外工場・マレーシア工場でも、現地従業員の間に地域社会に貢献しようという意識が着実に根付いています。そうした従業員の意識の高まりが、身近な河川の水質浄化活動という新しい地域貢献の道を切り拓きました。

現地従業員からの提案 私たちの川をきれいに

マレーシア工場のあるケダ州スンガイペタニ市は、近年、住宅地として急速に発展した都市。都市化とともに市の中心部を流れるスンガイペタニ川の汚れが、社会問題となっていました。マレーシア政府は州や市とともに川の水質浄化を進めてきましたが、活動は学校や市の職員の行事として細々と続けられるのみ。それを知った現地従業員は、これに協力することを会社に提案。新たな社会貢献活動として、早速取り組みが始められました。

現地従業員は、会社に協力を提案するだけに留まらず、広く地域全体のことを考えていました。会社の支援をきっかけに地域

の人々も活動に参加できるような方法も視野に入れ、自主的に市と協議するなど、常に活動を牽引していったのです。

積極的な社内プロモーション ポロシャツやポスターづくり

政府が推進する水質浄化の手法は、水質浄化に働くバクテリア入りの泥団子を大量につくり、それを川に投げ込むというものです。日本で開発された技術の応用で一定の効果が確認されていますが、泥団子づくりをはじめ、それを川に投げ込む作業にはたくさんの人手が欠かせません。

プロジェクトのメンバーたちは、一人でも多くの従業員にこの活動に参加してもらうため、賢明にプロモーション活動を展開しました。

重点報告
Report.5
ステークホルダーへの誠実さ

Integrity

Integrity for stakeholders



活動の間には、あちこちで記念撮影が、お祭りが大好きなマレーシアの人々は、河川浄化活動を楽しみイベントに盛り上げました。



専門家の指導を受けて行った泥団子づくり。水加減が重要です。



用意されたお揃いのポロシャツ姿で、作業は利気あいあいと進みました。



次第にコツが覚え、上手にできた泥団子自慢。



泥団子の材料は政府から支給されました。



現地を抜けた環境省職員。政府はバクテリア入り泥団子の投入で、全河川の水質向上を推進しています。

国内拠点で行われた社会貢献活動



北海道地区 全道事業所周辺の道路、公園などのゴミ拾い活動などを展開しました。



東北地区 地域の皆と仙台の広瀬川河川敷を清掃。ベントガールキャップの回収にも取り組みました。



中部地区 地元の軽舞公園の清掃活動を中心に、関係会社や地域の人を交えた活動を進めてきました。



近畿地区 神戸マリン広場や須磨海岸の清掃活動などを実施しました。



中国・四国地区 2002年からの衣料援助活動や使用済み手拭回収活動などに取り組みました。



九州地区 エコキャップリサイクル活動や地域環境美化活動(ラブアースクリーニングアップ)などを展開しました。

Top Commitment

未来に向けた新しい価値を生み出すために

住友ゴム工業株式会社 代表取締役社長 池田育嗣

プロフィール：池田 育嗣(いけだ いくじ)
京都大学工学部卒、1979年住友ゴム工業入社、2000年タイヤ生産技術部長、2003年執行役員、2007年取締役常務執行役員、2010年取締役専務執行役員、2011年3月30日より現職



住友ゴムグループは、「VISION 2020」において「真のグローバルプレーヤーを目指す」を目標に掲げ、その達成に向け、新たに挑戦していくことを宣言しました。当グループは、これからも、人・地域・社会にとって真に価値ある存在であり続けるため、事業基盤を固め、縦と横のつながりの強い、変化に揺るがない組織を築き、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「VISION 2020」の取り組みを通じた社会の持続可能な発展に貢献

社会的価値を追求することは、経済的価値の追求と合わせて企業の持続的成長にとって必要不可欠であり、住友400年の歴史のなかで脈々と受け継がれてきた理念でもあります。2012年9月に公表した「VISION2020」においても、「高収益・高成長の真のグローバルプレーヤーになる」とともに、「ステークホルダーにとっての価値向上と、全社員の幸せを追求する」、すなわち社会的価値の追求を目指す当グループが企業の姿として織り込んでおります。

当グループは、CSRメッセージ「for you, for the earth(あなたのために、地球のために。)」とともに、コンプライアンスや環境保護をはじめとしたさまざまな社会的責任を果たしていくことはもちろん、未来を見据え、高い技術力・開発力を持って持続可能な社会の実現に貢献してまいります。同時に、お客様の安全や快適性を考えた商品開発に努め、品質や経済性を追求するとともに、経営の健全性と透明性を高め、すべてのステークホルダーに対して誠実であり続けていきたいと考えています。

環境保全の推進と100%石油外天然資源タイヤを目指して

当グループは、2009年にエコ・ファースト企業に認定され、地球規模での環境保全に向けさまざまな取り組みを行っています。その一つとして国内外の拠点やその周辺地域で100万本の木を植える「郷土の森づくり」を展開しています¹。この活動の一環として国内で進めている、どんぐりを種から育てて植樹する「未来を植える！どんぐりプロジェクト」は、毎年2万本を目標に植樹を続けています。このペースで10年間植樹を続けていくことで、25年後には国内事業所からのCO₂年間排

出想定量すべての吸収が可能となります²。

この「どんぐりプロジェクト」と並ぶ活動として、低燃費タイヤ「エナセーブ」購入のお客様に代わりタイ国・インドネシア国にマングローブの苗木を植樹する「Team ENASAVE」キャンペーンを進めています。2009年にスタートしたこの取り組みは、2011年に、100万本の植樹を達成することができました。これは、お客様の環境保全への関心が高まるなか、低燃費で環境にやさしい商品が消費者の皆様にも広く受け入れられたことによるものと考えております。2010年1月より「タイヤラベリング制度」が始まり、お客様へタイヤ性能がよりわかりやすくなったことで、今後も低燃費タイヤへの関心はますます高まることが予想されます。

住友ゴム工業は、次期環境対応商品として「100%石油外天然資源タイヤ」の開発に取り組んでおり、現在は、石油外天然資源比率を97%にまで高めたタイヤを発売しています。2011年に、バイオ素材技術を応用することで残り3%を天然資源化することに成功し、プロトタイプタイヤが完成しており、これにより、「100%天然資源で環境にパーフェクトにやさしいタイヤをつくる」という未来のタイヤ技術の実現に向けて大きな一歩を踏み出しました。

今後、「100%石油外天然資源タイヤ」の発売に加えて、さらなる進化技術として高機能バイオマス材料を開発し、「高機能石油外天然資源タイヤ」の商品化を目指してまいります。

高い志で「真に価値」ある企業へ

企業が持続的成長を続けていくためには、持続可能な社会の発展への貢献を通じて社会から信用される存在であり続けなければなりません。当グループは、「VISION2020」の取り組みを通じ、「世界一の価値」を追求し、すべてのステークホルダーにとって「真に価値」ある企業を目指しています。そのために、「住友ゴムWAY」を企業風土にしっかりと根付かせ、社員一人ひとりが高い志を持ち、自由闊達な雰囲気の中で互いに高め合い、未来に向けて新しい価値を生みだしてまいります。

皆様には引き続き、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。また、本報告書に対して、皆様から忌憚のないご意見やご感想を頂戴できれば幸いです。

1：既に100万本を植樹し、目標を200万本に上方修正しています。 2：CO₂の吸収量は、葉がCO₂を吸った量でありCO₂固定量とは異なります。

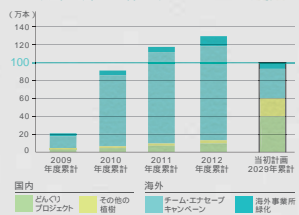
CSR活動報告

Green 緑化
Green initiative

森づくりを通じた地球温暖化防止と地域との交流

住友ゴムグループは、CSR活動ガイドラインの一つに「Green」(緑化)を掲げて、国内外の各事業所や周辺地域の緑化活動を推進しています。2009年度から開始した、国内に加え世界各地の事業所やその周辺地域において、20年間100万本の木を植えるという「100万本の郷土の森づくり」プロジェクトは、20年間という当初の目標を遥かに上回るペースで植樹が進み、2012年に130万本の植樹を達成しました。

100万本の郷土の森づくりプロジェクトの進捗



未来を植える! どんぐりプロジェクト

当グループは2005年、緑化活動の一つとして、どんぐりを苗木に育て植樹する活動を開始。2007年に、地域の方々や従業員の家族にもどんぐり集めにご参加いただけるよう「どんぐり銀行」を設立しました。さらに2008年にはこのどんぐり植樹活動を「未来を植えるどんぐりプロジェクト」として拡大。以来、国内の8事業所で、どんぐり銀行に集まったどんぐりを事業所敷地内で育て、地域に植栽して育てていく活動を続けています。植栽目標は10年間で20万本。

2012年度は25,834本を植樹。プロジェクトの植樹累計は93,963本となりました。これからも、従業員やOB、地域の皆様に参加する環境保全活動として、国内全事業所で推進していきます。

どんぐりプロジェクトの概要



丹波市にある「GENKIの森」での緑化活動

国内での緑化活動
「GENKIの森」

当グループの国内事業所では、「どんぐりプロジェクト」の一環として、事業所内に加えて事業所周辺地域へも緑化活動地を拡大しています。同じ植樹でも外来樹は生態系に影響を及ぼす恐れがあるため、対象とする苗木をその地域で集めたどんぐりから育てたものに限定。生物多様性の保全を図りながら緑を増やす努力を続けています。「住友ゴムGENKIの森」と名づけられたこれらの緑化活動地は、当グループの事業所がある地域の中



白河工場「GENKIの森」での植樹

に全国9か所、計21haに上っています。2012年度はこれらのGENKIの森において、12,000本のどんぐりの苗木を植樹しました。

国内での緑化活動
どんぐり以外の植樹

どんぐりプロジェクトは国内緑化活動の大きな柱ですが、生物多様性を考慮し、国内各事業所構内およびGENKIの森にてどんぐり以外の植樹活動も実施しています。2009年から昨年までに合計35,936本、昨年度は7,408本の植樹を実施しました。サザンカ、サクヤ、ヤマボウシ、マキ、サツキ、ツツジなどです。



宮崎工場で地元小学生との植樹

地球と人の持続可能な未来を託して。

世界に広がった植樹活動に



タイ工場従業員によるマングローブの植樹

海外における緑化活動

世界各地の事業所でも、地球温暖化防止と地域交流に向け、緑化活動を推進しています。2012年度は、中国・常熟工場、中国・中山工場、インドネシア工場、マレーシア工場、タイ工場、ベトナム工場および海外販社で計34,356本の植樹を実施しました。

そして、2009年から実施している低燃費タイヤ「エナセーブシリーズ」の売上の一部でマングローブの植樹を行う、お客様参加型の植



詳細は「DUNLOP ホームページ」の「チームエナセーブ」をご覧ください
<http://team.enasave.jp/>

TOPICS

宮崎工場が「平成24年度 緑化優良工場等経済産業大臣賞」を受賞

宮崎工場は、「第31回工場緑化推進全国大会」において、工場の緑化を積極的に推進し工場内外の環境整備に顕著な功績があったとして、経済産業省から「緑化優良工場等経済産業大臣賞」を受賞しました。長年にわたり工場および周辺立地環境に配慮し、総合的な緑化計画に基づいた工場緑化推進の取り組みを行っていることが、地域の環境保全に大きく貢献していると認められたものです。現在、宮崎工場敷地内では、絶滅危惧種ヒゴタイの育成・保護活動に取り組

むとともに、グランドおよび北側緑地帯を地域住民や学校に開放し、野球、サッカー、グランドゴルフなどに利用いただいています。工場内北側緑地帯の一角に、生物多様性の取り組みおよび地域や従業員との交流場所の提供を目的としたビオトープを従業員が中心になって製作し、昨年11月に完成しました。さらに宮崎県の「企業による森づくり」制度を利用し、約1haの閑の尾「住友ゴムGENKIの森」にカシやマテバシなど1,920本の植樹を実施しています。



授賞式の様子(左は杉本宮崎工場長)

「緑化優良工場等経済産業大臣表彰」は過去において経済産業省長表彰や財団法人日本緑化センター会長表彰を受賞した工場のうち、都道府県知事および政令指定都市の長が推薦のあった工場に対して、現地調査の実施、外部専門家による審査を経て、選考・決定されます。

従業員の声

住友ゴム工業 株式会社
宮崎工場 工場長
杉本 浩一

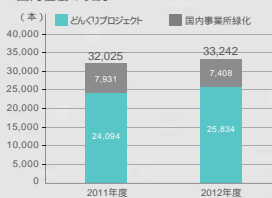


周囲を広く巻き込み、心が和む「緑地づくり」

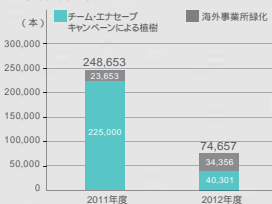
従業員が地域の皆様と協力して取り組んできた緑化活動が公に評価され、とても光栄に思っています。今後も、地域とのつながりを大切に、心が和む「緑地づくり」に励んでいきたいと考えています。また、一連の活動を次の世代につなげて未来に残していくために、今以上に多くの人を巻き込んで楽しみながら活動を継続できるよう、さまざまな工夫を凝らしたいと思います。

住友ゴムグループにおける緑化の状況

国内植樹の状況



海外植樹の状況



CSR活動報告 Ecology Ecological process

CO₂排出量の低減

地球温暖化の問題には、人類の喫緊の課題としての早急な取り組みと、大きな視野と強い意志を持った改善への努力の持続が、同時に求められています。住友ゴムグループは、あらゆる企業活動を通じて地球温暖化対策を推進するという環境方針に基づき、今後もCO₂排出量低減に向けて最大限の知恵と熱意を注いでいきます。

「エコ・ファーストの約束」の更新

住友ゴム工業は、2009年3月に環境省が制度化している「エコ・ファースト企業」に認定され、当初取り交わしたすべての約束を達成することができました。

2012年3月に、2015年を目標年度とする新たな「エコ・ファーストの約束(更新書)」を環境大臣と取り交わしました。

新たな約束は、「低炭素社会の構築」、「循環型社会の形成」、「自然との共生」についての6項目の先進的取り組みです。これらの約束について、2012年は計画通りに進捗しました。



「エコ・ファーストの約束(更新書)」を取り交わす 細野環境大臣(当時)と池田社長

生産における温暖化防止

2012年度の当グループ国内6工場の生産活動にともなうCO₂排出量は264千t-CO₂(1990年度比90%)となり、前年から1千t-CO₂削減できましたが1990年度比14%以上削減という目標は未達成でした。CO₂排出量原単位は前年度比3%の悪化となりました。これは、一昨年の東日本大震災後の、生産移管による生産ロスの増加、昨年度下の大幅な減産などの影響が主な要因です。排出している温室効果ガスは他にメタン、一酸化二窒素、ハイドロフロロカーボン、六フッ化硫黄があり、2012年は400t-CO₂(CO₂排出量の約0.1%)を排出しました。原油換算エネルギー使用量は前年度比3%の悪化となりました。

2012年度の海外8工場、国内関係会社5工場においてCO₂排出量原単位、原油換算エネルギー使用量原単位は、ともに目標は未達成でしたが前年比2%改善しました。

2013年度は、昨年に見直した中期計画に沿って、グループ内外の全拠点での目標達成を目指します。

CO₂排出量と原油換算エネルギー使用量 国内6工場



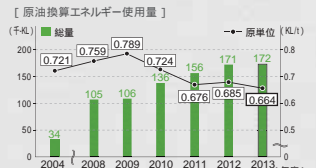
原油換算エネルギー使用量



CO₂排出量と原油換算エネルギー使用量 海外8工場



原油換算エネルギー使用量

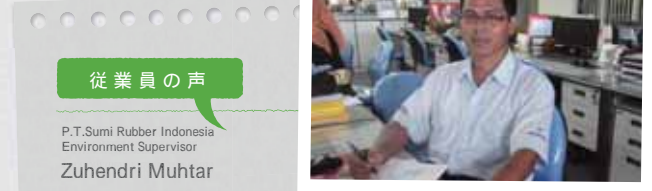


経営上の最重要課題として

さらなる促進への環境保全活動の



エコファーストの約束(更新書)



従業員の声

P.T. Sumi Rubber Indonesia Environment Supervisor Zuhendri Muhtar

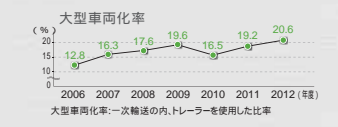
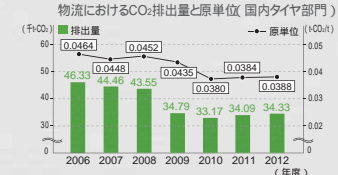
インドネシア工場を、CO₂削減No.1に!

電気、燃料ともに、設備ごとにCO₂排出量原単位の削減目標を設定し、きめ細かく管理した結果、電気は前年比5%、燃料は前年比7%削減できました。環境エネルギー委員会を中心に従業員個々の意識を高め、照明の消灯やエアコンの最小化などの省エネ活動も展開しています。今後も、カーボンニュートラルという目標に向け、CO₂削減No.1工場を目指します。

物流におけるCO₂排出量の削減

2012年度のタイヤ輸送におけるCO₂排出量は34.33千t-CO₂(2006年度比26%削減)、前年度比1%増となりました。海外工場生産サイズ、白河工場生産サイズの生産移管により宮崎工場製品の輸送が一部遠距離化したことで、平均輸送距離が前年度より5ポイント増加したことが主な要因です。一方で、モーダルシフト率は15.4%と前年度より1.7ポイント向上、大型車両率は20.6%と前年度より1.4ポイント向上し、ともに目標を達成しましたが、原単位は0.0388(t-CO₂/t)、前年度比1%増となりました。

2013年度は、内陸倉庫での輸出用タイヤのパンニング実施拡大など輸送距離短縮に重点的に取り組むとともに、その他の改善活動の維持、推進に努めます。



モーダルシフト(船舶輸送)

グリーン物流ガイドライン

当グループは、2007年12月に「グリーン物流ガイドライン」を策定・公開し、取引先と協力しながら、CO₂排出量の削減や環境負荷低減に取り組んでいます。2012年度も、当グループの環境方針の周知やタイヤ輸送車両(ドライバー)ごとの具体的エコ活動(アイドリングストップ、速度の遵守など)の啓発に努めました。

2013年度も、さらにこれらの活動を進めます。



住友ゴムグループ「グリーン物流ガイドライン」(小冊子)

経営上の最重要課題として 環境保全活動のさらなる促進へ。

循環型社会の形成

環境と経済が両立する循環型社会の形成には、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取り組みを欠かすことはできません。住友ゴムグループは、今後、完全ゼロエミッションの維持を旨とすると、先進的な活動を推進していきます。

国内外主要製造拠点で 完全ゼロエミッションを継続

当グループは廃棄物の再資源化を推進し、エコ・ファーストの約束の一つとして国内外の主要製造拠点で2010年末までに埋立廃棄物をゼロにする完全ゼロエミッション達成を目標に掲げ、2010年3月に達成しました。

その後、タイのテニスボール工場と天然ゴム加工工場でも完全ゼロエミッションを達成しました。今後立ち上がる新たな拠点についても、順次計画的に達成していく予定です。

また、再資源化におけるマテリアルリサイクル率の向上にも力を注ぎ、2012年度は、目標としていた82%を達成できました。2013年度は85%を目標に取り組みを続けます。



従業員の声



SRIエンジニアリング課 加古川事業所
製造第1グループ 副主任
福山 武幸

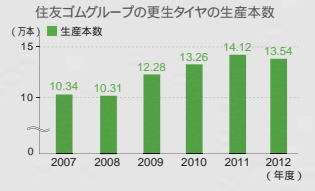
どこまでも続く循環型社会形成への挑戦

タイヤモールドの鋳造では3回の転写品のうち2回分が廃棄物に。これを全員の知恵と努力でリデュース&リサイクルし、完全ゼロエミッションを実現しました。さらに、素材と形状に工夫を重ね転写品の一部をリユース可能として、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を達成しました。今後は、リデュースとリユースを一層進め、ノウハウを海外に展開して、グローバルな環境保全を目指します。

更生タイヤ事業への積極的な取り組み

更生タイヤは、省資源、省エネルギー、CO₂削減効果など、輸送事業者の環境経営やコスト削減に貢献する取り組みとして需要が高まっており、グリーン購入対象商品にもなっています。当グループでは1972年に専門子会社を設立し、兵庫県と北海道の2カ所に更生タイヤ生産拠点を設けて、お客様のニーズにお応えしています。

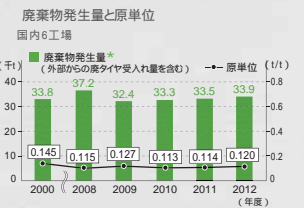
れるかはタイヤの使用状況によって決まります。当グループではお客様へ適切なタイヤ管理を提供し、より長く経済的にご使用いただけるようサービス活動を推進しています。



廃棄物発生量原単位の削減目標の達成状況

2012年度の国内6工場での廃棄物発生量は33,900tと、前年度より400t増加し原単位でも前年比5%悪化となり、目標は未達成でした。

海外工場の廃棄物発生量原単位は、前年比横ばい目標を未達成。また、国内関係会社では、前年比3.5%削減することができ、前年比5%削減の目標を達成できずでしたが、改善が進みました。



生産拠点におけるゼロエミッション達成状況

生産拠点名	ゼロエミッションの達成時期	完全ゼロエミッションの達成時期
白河工場	2001年12月	2004年12月
名古屋工場	2001年12月	2004年12月
泉大津工場	2003年12月	2005年3月
宮崎工場	2003年12月	2004年12月
加古川工場	2002年12月	2005年6月
市島工場	2001年12月	2005年6月
インドネシア工場	2004年12月	2008年8月
中国・常熟工場	2005年10月	2006年9月
タイ工場	2008年11月	2009年6月
マレーシア工場	2006年8月	2010年3月
中国・中山工場	2006年11月	2008年10月
ベトナム工場	2008年10月	2009年3月
タイ・テニスボール工場	2010年11月	2011年7月
タイ・天然ゴム加工工場	2012年12月	2013年1月
株式会社ダンロップトレッドサービス	2006年9月	2010年9月
株式会社ダンロップトレッドサービス北海道工場	2006年9月	2010年3月
SRIエンジニアリング株式会社	2008年3月	2008年5月
中田エンジニアリング株式会社	2006年7月	2008年3月
株式会社ダンロップゴルフクラブ	2004年7月	2006年5月
主要生産拠点における達成状況	19/19(100%)	19/19(100%)

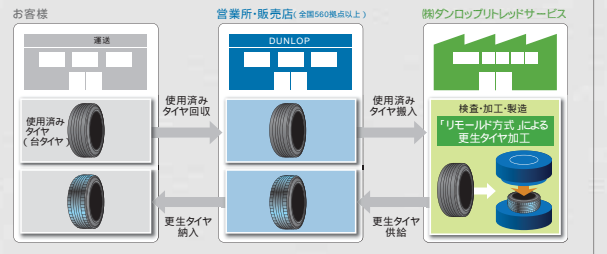
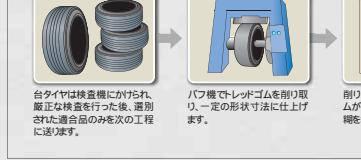
委託更生システム

委託更生システムとは、お客様が自社でご使用になられたタイヤ(台タイヤ)を更生タイヤとして再生加工する方式です。この委託更生システムを利用すれば、新品から再生まで一トータルライフを管理できますので、安心してご使用いただけます。また経済的です。

- お客様のメリット**
 - SAFETY** 安心
 - COST MERIT** コストメリット
 - ECO** 省資源

更生タイヤの製造工程(リモールド方式)

リモールド方式とは、台タイヤのトレッドゴムの表面を削り取り、未加硫ゴムを貼り付けて加硫する方式。トレッドゴムが端までしっかり密着し、外觀がキレイに仕上がる高品質・高性能を誇る更生技術です。



台タイヤは検査機にかけられ、規定な検査を行った後、適切な適合品のみを次の工程に送ります。

パフ機でトレッドゴムの削り取り、一定の形状寸法に仕上げます。

削り取った部分に、再生用ゴムが接着しやすくなるように、ゴム糊を均一に塗布します。

削り取った部分に、定められた形状の再生用ゴムを貼り付けます。当社のリモールド方式ではジョイントレッドを採用しています。

成型したタイヤをモールドに金型を入れて一定時間、熱と圧力を加えます。

できあがった更生タイヤは、外觀・内面などを厳密にチェックし、全工程を完了した合格品のみが製品として出荷されます。



経営上の最重要課題として 環境保全活動のさらなる促進へ。

グローバル環境経営の推進

環境の保全は、グローバル社会において企業が果たしていかなばならない最も重要な責任の一つです。グローバル企業には、国や地域による濃淡なく世界中で環境経営を実践していくことが強く求められています。住友ゴムグループは、事業のグローバル化の加速にとまじり、グローバル環境経営の推進に一層の力を注いでいます。

グローバルな環境マネジメント体制

グループの環境マネジメントを強化するため、2007年度から国内外の拠点の責任者が集まる「グローバル環境管理中央委員会」を年2回の頻度で開催しています。

2012年度は2月、7月に開催し、製造部門から「CO₂、廃棄物、排水などの各指標の削減実績と改善内容」、技術部門から「環境配慮商品の開発動向」、材料開発部門から「低燃費素材の開発」などの報告と活発な議論が行われました。

今後、この委員会を通してグローバルに情報共有を行い、切磋琢磨することで各拠点の活動を活性化させていきます。



2012年グローバル環境管理中央委員会



新人社員に対するISO14001の教育訓練



中国・中山工場の協力企業に対する環境取り組み説明会



従業員の声

中山住膠精橡有限公司
監査課 副経理
黄 炳芳



協力会社とともに 環境への取り組みを展開中

OA機器用の精密ゴム部品を作っている中山住ゴムでは、有害化学物質の管理強化に取り組んでいます。RoHS規制やREACH規制は年々要求内容が多くなっており、管理も難しくなっています。金属・樹脂部品の協力会社にも管理強化を行ってもらうために、説明会を開催しています。

2012年度は、参加への意欲がより高まるよう、「環境管理」と「品質管理」の合同説明会を開催。有害化学物質の規制内容の他に、中山住ゴムの品質・環境管理手法などをできるだけわかりやすく紹介し、好評を博しました。今後も協力会社とともに、環境への負荷を抑えた安心できる製品を提供していき、多様な取り組みを展開していきます。

従業員の声

Sumitomo Rubber Vietnam, Ltd.
生産技術課 課長
Pham Thanh Tung



グループの誇りを持って取り組む環境経営

昨年、グローバル環境管理中央委員会に参加し、全グループで環境管理、省エネ、緑化が推進されていることに感銘を受けました。スマラバーベトナムも、操業3年目の2009年に完全ゼロエミッションを達成。植樹活動も定期的に進めています。2013年度は新製品の立上げも予定され、会社は大きく成長していると考えています。工程での不良低減活動を進めるとともに、植樹活動を継続し、事業規模に恥じない環境管理活動を展開していきます。

2010年12月に グローバル統合認証を取得し、 新たな拠点へも拡大中

当グループは、低炭素社会の実現をはじめ企業活動のすべてにおいてグローバルな管理ができるよう、2010年12月に国内外30拠点のISO14001のグローバル統合認証を取得しました。

海外の事業所を含めたグローバル統合認証の取得は業界初で、これにより、国内外の主要生産・開発拠点の環境管理体制が一元化されることとなります。

2012年は、タイの天然ゴム加工工場（STEC）で新たに認証を取得し、グローバル統合認証に加盟しました。

今後も、海外の新拠点が立ち上がりやすさが、順次認証を取得する計画です。



ISO14001グローバル統合認証登録証



スマラバータイスタンコーポレーション登録証

環境負荷物質の適正管理に向けた グリーン調達活動

当グループは、原材料などの購入にあたってISO14001認証取得企業を優先するほか、原材料に含まれる有害物質削減などの環境負荷物質管理体制の強化、低公害車・低燃費車導入などのグリーン調達に取り組んでいます。

2011年2月には、調達ガイドラインを見直し、取引先にCSR活動へのご協力をお願いするとともに、GADSLに準拠した管理体制へ移行しました。これは取引先の負担軽減とともに、規制が高まる海外を含めたグローバル管理の強化を図ったものです。

これからもグループを挙げて、環境へ配慮した原材料の購入と管理に努めています。

グリーン調達の取り組み項目

- 1 調達ガイドラインでGADSL¹に準拠した化学物質管理を規定
- 2 原材料などの購入では、ISO14001認証取得企業を優先
- 3 原材料などに含まれるPRTR法²対象物質の削減の推進
- 4 低公害車・低燃費車の導入
- 5 包装材の削減
- 6 再生ゴムの購入

¹ Global Automotive Declarable Substance List
自動車用の主要自動車、部品、化学メーカーで使われる業界標準の環境負荷物質リスト
² Pollutant Release and Transfer Register
「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律」
有害性が疑われるような化学物質が、どこから、どれくらい、環境（大気・水・土壌など）へ排出されているか（排出量）、廃棄物などとして移動しているか（移動量）を把握し、集計・公表する制度

Next

次世代型技術・製品の開発
Next-generation product development

環境配慮商品の開発

住友ゴム工業のタイヤ部門は、環境配慮自社基準を策定し、タイヤの高性能化にとどまらず、石油外天然資源の活用や低燃費性、特殊吸音スポンジの搭載など、地球環境保護や快適性に配慮した商品を生み出しています。独自のタイヤ技術で、2013年には100%石油外天然資源タイヤの発売を予定し、2015年には50%転がり抵抗低減タイヤの発売を目指しています。

環境対応タイヤの普及を目指して

住友ゴム工業の環境対応タイヤ「LE MANS 4」「エナセーブPシリーズ」「エナセーブ PREMIUM」「エナセーブ 97」「エナセーブ RV503」「エナセーブ EC202」全サイズは、2010年1月からタイヤ業界自主基準として運用が開始されたタイヤラベリング制度の「**低燃費タイヤ**」に適合しています。

当社は、乗用車以外にVANやライトトラック用さらにはモーターサイクルタイヤにおいても、環境配慮タイヤの展開を進めています。

2012年には、ラベリング制度の転がり抵抗性能で最高ランク「AAA」の「低燃費タイヤ」「エナセーブ PREMIUM」を追加し、さらには「エナセーブ」ブランドを商用車に拡大、「エナセーブ

VAN01(バンゼロワン)、「エナセーブ SP(エスピー)LT38(エルティサンハチ)」の環境対応タイヤを発売しました。

2013年はプレミアムコンフォートタイヤ「VEURO VE303(ビューロ ブイイー サンマルサン)」を発売しました。

これまで以上に、テレビコマーシャルや店頭などでラベリング制度の普及を推進するとともに、当社の環境配慮商品を積極的にPRしていきます。

「世界一の品質の創造」に向けた国内外の品質向上活動

住友ゴムグループは「現地現物主義に立って、お客様の期待に応え、よりよい製品を責任をもって提供する」という企業理念に基づき、お客様の声を聞き、お客様に満足し喜んでいただける商品を提供することに努めています。そして、「世界一の品質の創造」を品質方針とし、全社的な品質向上活動に取り組んでいます。

当グループの品質マネジメントシステムは、自動車用部品・サービス部品の国際規格であるISO/TS16949を基準に構築しています。

海外における品質マネジメントシステムの構築にも積極的に取り組んでおり、昨年12月には中国・湖南工場でISO9001の認証を取得しています。

今後は、当グループで認証している品質マネジメントシステムの実効性の向上を図りながら、品質方針である「世界一の品質の創造」に向けて、さらなる品質改善活動を推進していきます。

- 1 一部サイズは「AA」
- 2 ISO/TS16949・ISO9001をベースに自動車業界固有の要求事項を追加した品質マネジメントシステム規格。



VEURO VE303

環境への配慮を 推し進める商品づくり。

徹底的な安全性 向上を図りながら

「安全・快適」「経済性」「品質」の追求

商品の環境性能は、「安全・快適」「経済性」「品質」など、人々が求める多様な価値と両立させてこそ意義があると考えています。当グループはこれからも、より広く支持される環境配慮商品の開発を積極的に進めていきます。

全国の道の駅等で実施している「全国タイヤ安全点検」

ダンロップタイヤ営業本部は、2008年から当社の創立記念日である10月4日より全国タイヤ安全点検を春と秋の年2回、全国47都道府県の道の駅等で実施しています。

全国タイヤ安全点検ではタイヤに起因する事故の未然防止を目的に、各点検会場に来場された車両に装着されているタイヤの残溝、空気圧、タイヤ表面の損傷等の点検を実施。同時に、ドライバーの方にタイヤの安全で正しい使用方法や管理方法を説明し、タイヤ点検の重要性をお伝えしています。

今後もこの活動を通じて、ドライバーの皆様へ安全で正しいタイヤの使用法や管理方法を訴求していきます。



点検の様子



トヨタカイゼンフェスティバルで5年連続優秀賞を受賞

木造住宅の耐震性を高める制震ダンパー「MIRAIE[ミライエ]」の新商品を開発・発売

当社は、独自の高減衰ゴムを採用した住宅用制震ダンパー「MIRAIE[ミライエ]」を開発し、2012年3月より発売を開始しました。設置数も少なく、設置後もメンテナンスフリーで、大きな負担をかけずに地震の揺れ幅を最大で70%低減する点が、安心・安全を希求される多くのハウズビルダー様よりご好評をいただいています。

この度、さらなるニーズにお応えするため、在来軸組工法用に加えて、2x4工法用を開発し2013年3月より販売を開始しました。合板パネルをベースとした形状で、パネル左右に高減衰ゴムダンパーをバランスよく配置することで、

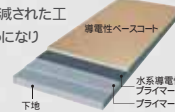


振動台実験の結果によるもの。建物形状、配置プラン、地震波によって異なります。

高い耐震性能が得られました。今後も、この技術を積極的に広く展開し、人々の安心・安全・快適を提供していきたいと考えています。

塗床材における水系材料の開発推進

導電床は、精密電子部品工場等で静電気による製品破壊防止性能を要求される床に採用されますが、導電プライマー層に溶剤系の材料を使用しているため、改修工事を行う時は、工場の休日で分割工事とするか、多額の養生費用をかけて溶剤系材料の刺激臭を封じ込める必要がありました。今回当社が開発した水系材料により、性能面は維持しつつ、環境にやさしく、工場稼働中にも実施できるため工期の短縮が図れ、養生費用削減によりコストも低減された工事が行えるようになりました。



導電プライマーに水系材料を使用した塗床材

従業員の声

住友ゴム工業 第一技術部 竹本 義明



常に考え続けている 低燃費と他性能との両立

環境対応(低燃費)タイヤの開発で困難な点は、他性能との両立です。今回のVE303では、パターン開発時の剛性分布の適正化や基本骨格プロファイルの採用などにより、多くの性能で高いレベルを達成できました。低燃費タイヤのラインアップも揃いました。今後も、お客様の求めるタイヤを開発できるよう、妥協のない性能の両立を追い求めています。

TOPICS

トヨタカイゼンフェスティバルで5年連続優秀賞を受賞!

2012年12月1日、「第25回 TOYOTA Manufacturers Club KAIZEN FESTIVAL トヨタカイゼンフェスティバル」が開催されました。トヨタ自動車のインドネシア法人へ部品を納入する34社が参加し、住友ゴムグループも、個人部門、QCサークル部門の両方に参加しました。

その結果、工務のアドゥルラハマンさんが個人部門で1位、工務・製造、生技の混成サークルがサークル部門で2位を獲得しました。2008年から継続して3位以内入選を続けるという快挙です。

日頃から培ったPDCAサイクルを回し、2G(現地現物)に則った改善活動が評価されたの受賞です。今後は安全第一で高品質かつ低価格の商品をお客様に安定供給できるよう、さらに高い目標に向かって、全社一丸となって改善活動を続けていきます。



Kindness

Kindness to employees

人材育成と働きがいの向上

住友ゴムグループは、研修、自己啓発、OJTなどを通じて、従業員の能力開発に努めています。また、技能を競うイベント開催や、研修の種類・内容・施設の充実など、仕事への意識を高める諸施策に力を入れて、働きがいの向上へとつなげています。

「問題を掘り下げ力」「マネジメント力」「グローバル力」の強化

当グループでは、2010年度から「問題を掘り下げ力」と「マネジメント力」を軸に人材育成を展開しています。管理職候補者を対象に、ビジネスの意思決定に必要な基礎知識研修と職場運営・部下育成に関する基礎知識研修を、若手社員全員を対象に、OJTリーダー研修を実施。管理職には指導・育成力、若手社員には人間関係の構築・指導力の強化を図っています。海外現地法人においては、2011年に現地従業員を対象にしたアセスメントを実施しました。2012年には管理職層の業務遂行能力とマネジメント力向上のため、研修を開始しました。

場、第7回(10月：モールド部門)金賞・名古屋工場、銀賞・白河工場、銅賞・宮崎工場、特別賞・タイ工場。今までに金賞を受賞したのは、白河工場が3回、名古屋工場2回、泉大津工場2回となり、国内工場が頑張っています。



第7回技能オリンピック



第8回技能オリンピック入賞者

技能伝承と意欲向上を目的とする「技能オリンピック」の開催

2009年白河研修所の竣工以来、「技能オリンピック」を半年ごとに開催しています。2012年の結果は次の通りでした。第6回(5月：トレッド押出部門)金賞・白河工場、銀賞・インドネシア工場、銅賞・中国常熟工場、特別賞・泉大津工

国内外統一のモノづくり教育の推進

国内外の製造拠点が「モノづくり教育を統一的に推進すること」を目的に、2007年1月「製造

研修センター」を発足。「技能とモノづくり哲学の伝承」と「グローバル展開への対応」をテーマとする研修コースを準備し、工場監督者、スタッフ、海外工場指導員、海外工場の管理・監督者を対象に人材育成を進めています。

2009年4月には白河研修所を開設し、製造部門の管理・監督者や海外支援要員のスキルアップ研修をはじめ、製造技術の標準化の訓練などを幅広く行っています。また実際の製造設備を使って「現地・現物」を学べるようになりました。

2012年度は、白河研修所での受講者が延べ1,668名となりました。



白河研修所でのモノづくり研修

存分に発揮できる
快適な職場環境づくり。

従業員一人ひとりが
多様な個性と能力を

安全で働きやすい職場づくり

職場は、従業員が日々能力を高め、働きがいを実感できるとともに、安心して働ける環境を備えていなければなりません。当グループは、従業員の心身の健康や、労働安全衛生、災害への備え、さらには雇用の多様性などにきめ細かく配慮し、安全で働きやすい職場づくりに努めています。



安全体感教育中

す。定期的な教育には2012年度は34,300名の従業員が参加しました。

ほかに、実際の機械模型などを用いて災害の怖さを体感する安全体感教育で、危険に対する感性を高めています。この安全体感教育には23,500名の従業員が参加し、地域の企業や学校からも900名を受け入れました。

2013年度は、現場の作業や設備を見て危険の芽を探し、どうすれば危険をなくせるかを考え話し合う場を設け、実際の機械を使って災害状況を疑似再現する体感教育等を充実させて、さらに「安全な人づくり」を進めます。

従業員の心の健康を保つための取り組みを推進

従業員の心の健康を保つために、従業員と管理・監督者を対象に定期的にメンタルヘルス講習会を実施しています。2012年度は「セルフケアで健康づくり」をテーマに、全国の事業所で計8回の研修会を開催し、422名が参加しました。あわせて、「全社及び事業所別ストレスチェック結果」を説明し、ストレス調査結果情報の共有化を図りました。また、管理・監督者を対象にカウンセラーによるラインケア研修も実施し、職場でのメンタルヘルス対応に関する理解を深めています。

心の健康に問題がある従業員には、本人、上長、産業医、家庭が連携して心の健康を維持できるようフォローし、専門家によるカウンセリングを受けられるようになっています。



メンタルヘルス講習会

従業員の意見を採り入れた研修の実績

2007、2008、2010、2012年度に、仕事や会社に対する意識や満足度についての従業員アンケートを実施。意見を採り入れ、2010年度から管理職を中心にコーチングスキルをベースにした研修を実施した結果、2012年度のアンケートでは、上下の人間関係に関する項目が製造業平均値を大きく上回り、高いレベルとなっています。今回の従業員アンケートは、2014年の実施を予定しています。

2012年度従業員アンケート



生活習慣病への対応

生活習慣病を防止するために、2012年度は、定期健診の結果に基づき、8事業所を中心に特定保健指導を行いました。2013年度も保健指導を強化し、特定保健指導対象者の減少に努めます。

また、喫煙による健康被害をなくするため一般健康診断結果の有所見者や禁煙希望者に対し、「タバコの煙等には発がん物質や発がん促進物質が含まれ、動脈硬化の促進作用等がある。その結果、呼吸器系・肺系・心疾患等にかかりやすくなる」といった健康障害説明を行い、たばこが自らの体や周囲に与える害を理解してもらい、卒煙を目指す従業員を支援しています。

安全衛生に対する教育・啓蒙活動

当グループは「災害ゼロ」を目指すために最も重要な要素は「安全な人づくり」と考え、階層別教育やフォローアップ教育等で技能と知識の習熟度を確認しながら定期的に安全衛生に対する教育・啓蒙活動を進めています。

従業員の声

住友ゴム工業 開発ハイブリッド事業本部 企画部 村蔭 麻衣子



5年目研修で学んだ幅広い視野と長期的な視点

4人1グループで会社を「経営」するシミュレーション形式の5年目研修に参加。会社と市場全体を見渡して「これから」の進み方を決断することや、株主への還元などすべてのステークホルダーに責任と誠意をもつことの大切さを学びました。当グループの階層別研修は、「問題を掘り下げ力」を集中的に鍛え、受講後、効果がすぐに実感できる点が優れています。

従業員一人ひとりが多様な個性と能力を
十分に発揮できる快適な職場環境づくり。



泉大津工場消防火難訓練

従業員の声

住友ゴム工業 泉大津工場 安全衛生担当
横本 良治

「自分の身を守る人」づくりで、
完全無災害を達成

2012年は「自分の身を守る人」づくりを中心に安全活動を進めました。危険予知(KY)活動においては、提出されたKYカードについて職場で対策を検討し、ルールを取り決めて改善を実施。さらに安全環境課が進捗をフォローして最後まで対策を完了させました。また、防災活動では、消火設備の取り扱い方法を習熟するとともに、災害の防止には何が必要かを考えて行動できる人づくりを進めました。その結果、2012年は完全無災害を達成することができました。2013年も全員参加型の安全活動を継続し、無災害を達成します。

現地現物に基づいた
防災監査の実施

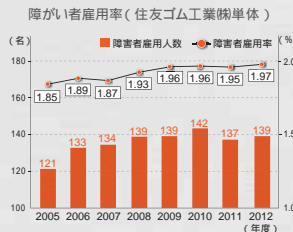
他社の火災やグループ内での火災発生を契機に、過去の火災事故の教訓を風化させないよう、2007年から国内外9工場で防災監査がスタートし、2012年は20工場で実施しました。危険物管理等の火災を未然に防止する活動、および消火設備・避難誘導の適正表示や消火・避難訓練等、被害を最小限にする活動の状況をチェックしています。

国内工場では2010年から大型地震災害を考慮した総合的な防災監査をスタートし、東日本大震災時も日頃の防災活動の成果によって、被害を最小限に留められたと考えています。今後も、従業員や地域の安全維持のため、「防災活動を定着させ、全員参加で災害発生ゼロ」をスローガンに活動していきます。

障がい者の職域拡大に向けた
積極採用と配属先の拡大

住友ゴムグループでは、さまざまな部門で障がいのある方が活躍しています。ハローワークと連絡を取りながら積極的に採用活動を展開し、一般事務に加えて、工場での軽作業やCADオペレーターなど配属先を広げています。配属先は、適性を考慮し、職場と連携して決めています。

また、働きやすい職場とするため新しい建物はバリアフリー仕様としています。障がい者用のトイレやエレベーターを設置し、カードリーダーを置く位置の高さに、行政の障がい者雇用率を採用しています。



社長懇話会

ワークライフバランスの推進

当グループでは、住友ゴム工業らしい働き方や、理想とするワークライフバランスについて、社内の対話を進めています。一人ひとりが、自分の求める働き方を実現し、充実した日々を送れるように、積極的に意識の向上や制度の整備などを推進していきます。

社長との自由闊達な意見交換の場

当グループは、経営層と従業員の間で問題意識を共有し、意見交換できる機会を定期的に設けています。2006年度からは、若手約10人ずつが参加する社長懇話会を開催。発言はその場限りのオフレコで、仕事上のアドバイス、社長の人生観、家族・趣味など、何でも自由に語り合います。横のつながりの強化ともなるよう毎年同年代を中心に参加者を構成し、2012年度は課長代理級社員と新入社員を対象に計18回開催、199名が参加しました。今後も、こうした対話の場を社内のあらゆる部門、あらゆる層で設けていきます。

タイヤ業界初の
「ぐるみん」認定企業として積極的な
ワークライフバランスへの取り組み

住友ゴム工業では、出産・育児にかかわる諸制度の整備や啓蒙活動によって、出産した女性従業員の育児休業取得率が100%を達成したほか、男性従業員への育児休業の



ミニ運動会

従業員の声

住友ゴム工業 材料第一部
井上 里美



両立させたい仕事と育児、
会社の支援を期待しています

2011年9月から1年7カ月間の育児休業を取得しました。仕事の引き継ぎ期間も適切で、安心して後を任せ育児に専念できました。復帰後は、短時間勤務の制度などに助けられながら、仕事と育児の両立に挑戦しています。職場環境が一層向上して、短時間勤務や育児休業などがさらに利用しやすくなれば理想的です。会社の支援を期待しています。

取得も積極的に推進しています。また、育児に配慮した勤務形態の導入、時間外労働の削減、有給休暇取得の推進などにも取り組んでいます。これらの実績が評価され、2009年タイヤ業界初の「ぐるみん」認定企業となり、現在も引き続き継続して認定されています。

今後も、仕事と家庭の両立を支援する「ワークライフバランス」に積極的に取り組んでいきます。



育児介護支援制度の
活用促進に向けた取り組み

当グループは2010年、父親が出産後8週間以内に育児休業を取得した場合は、子が2歳に達するまで再度育児休業を取得できると

いった育児休業取得回数制限の緩和や、家族の介護のための介護休暇制度の新設など、育児・介護支援を拡充しました。2012年には、育児のための短時間勤務制度について、開始日・終了日の制限を緩和して利用しやすくしています。

今後も引き続き、社内イントラネットなどを通じて各種制度のさらなる活用促進をPRし、取得率向上を目指します。

育児休業・短時間勤務・介護休業制度活用者数
(住友ゴム工業グループ単位)

	年度	2008	2009	2010	2011	2012
育児休業	男	0	1	1	3	0
	女	12	8	18	15	15
短時間勤務	男	0	1	0	1	0
	女	5	10	4	18	15
介護休業	男	0	0	0	1	2
	女	1	0	0	0	0

(単位:名)



社会に開かれた企業で
あり続けるために。

常にステークホルダーの
声を重視し

コーポレート・ガバナンスの充実

コーポレート・ガバナンスは、企業があらゆるステークホルダーに対し誠実な行動を果たし、その利益を守っていくために、なくてはならない仕組みです。住友ゴムグループは、企業市民として社会・経済の発展に貢献できる組織運営を目指して、あらゆる側面から、コーポレート・ガバナンスの充実に努めてきました。今後も、グローバルカンパニーとして国際社会の声にしっかりと耳を澄ませ、先進的な取り組みにも積極的に挑戦していきます。

コーポレート・ガバナンスに対する考え方

当グループは、株主をはじめすべてのステークホルダーに期待され信頼されるグローバルな企業として企業価値を高めていくために、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題と位置づけ、経営全般の効率性を確保するとともに、透明性の向上を目指し、法令遵守の徹底、内部統制システムの強化に継続的に取り組んでいます。

住友ゴム工業は、監査役会制度を採用しており、経営監督機能強化の観点から、監査役5名のうち3名を社外監査役としています。各監査役は執行役員からの報告の聴取や業務状況の調査などによって厳正な監査を実施し、取締役会などで意見を述べ、報告しています。

また、社外役員全員(社外取締役2名および社外監査役3名)については、関東東京証券取引所等の定めに基づき、独立役員として届け出ています。

リスクマネジメントの基本的な考え方

当グループは、リスクを「グループの経営理念に則った円滑な事業活動の遂行や経営上の目標・戦略の達成を阻害し、もしくはこれらに悪影響を及ぼす可能性のある要因」と定義しています。それぞれのリスクについて、できるだけその軽重に応じた経常的なコストと活動によって、合理的にリスクの軽減・最小化を図ることに努めています。

リスクの軽重は、金銭的な影響だけではなく、「品質と安全性の確保 ステークホルダーとの良好な関係維持 法令遵守、企業倫理の維持 住友事業精神、グルー



BCP訓練

プ経営理念およびグループ企業行動基準」の4つを勘案して判断することとしています。

2012年度は、2011年度に選定した重要リスクに対して、具体的な対応策を検討し実施してきました。

2013年度は、引き続き重要リスクへの対策実施を進めるとともに、全社リスクの分析を実施し、重要リスクの再選定と新規リスクの発掘を進めています。

BCP(事業継続計画) Business Continuity Plan

2012年度は、2010年から進めていた生産拠点の地震BCP拡大のほか、神戸本社、東

京本社への拡大展開を行ってきました。

策定にあたっては、事前対策と災害直後の初動対応、初期の復旧活動に重点を置いて活動を進め、事業継続と早期復旧を図るための計画づくりを行いました。

2013年度は、加古川工場の地震BCP策定に取り組み、国内事業所の地震BCPを完了させることを目指します。また、既にBCPを策定している事業所は、対策項目の進捗管理を行い、実効性についても検証を行っています。



コンプライアンス研修

コンプライアンスの徹底

法令や企業倫理を守ることはコーポレート・ガバナンスにおける基本ですが、これを完璧に実行し続けていくことこそが、企業の社会的責任です。当グループはさまざまな手だてを講じて、コンプライアンスの徹底を図っています。

企業行動基準普及による不正行為の防止

当グループは、「企業行動基準」のなかで「政治資金規正法および公職選挙法の遵守」「贈賄等の禁止」「反社会的勢力との絶縁」を挙げ、不正行為の防止を従業員に周知しています。

2012年度も国内外に「企業行動基準」の浸透活動を展開し、同時に法的リスクアセスメントやコンプライアンスの徹底および普及に努めました。海外駐在員に対しては、海外赴任者向け研修やイントラネットを通じた情報提供などによって、これらの方針を徹底しています。海外

への事業展開を拡大させていくにあたって、2012年度は、海外販社を対象にしたコンプライアンスリスクのアセスメントを積極的に行いました。また、現地従業員を対象に競争法に関する研修会を実施するなど、活動を深化・拡大させて、不正行為の防止に努めています。

社内・社外窓口の設置による報告相談への適切な対応

2003年2月「コンプライアンス相談室」を設置。以来、通報者は不利益を被らないという

従業員の声

住友ゴム工業 法務部 課長代理 弁護士 島田 豊



強く働きかけて海外コンプライアンスの徹底を

海外展開が加速するなか、翻訳版各種マニュアルの発行や現地での法務研修の実施などを通じ、海外現地の法的審査能力、判断力の向上に努めています。世界各地で競争法の執行が厳しくなっている現状を踏まえ、2012年11月には海外競争法講演会を開催しました。また、海外主要拠点を対象にコンプライアンス・リスクアセスメントを実施しました。今後もこれまで以上に海外コンプライアンスの徹底を図っていきたくと考えています。また、国内においても引き続き監査や法務研修を実施する予定です。

保証のもとに利用促進を図っています。2012年度の報告・相談件数は6件で、労働問題などに関するものでした。今後もコンプライアンス相談室による不正の早期発見と重大な問題発生防止に努めます。

コンプライアンスに対する従業員の意識向上

当グループは、従業員のコンプライアンスに対する意識を高めるため、新入社員研修や階層別研修などでコンプライアンスについて説明しています。2012年度は管理職を対象に海外競争法講演会を開催したほか、輸出管理や下請法に関する説明会を実施。グループ会社でも「コンプライアンス」「独占禁止法」「下請法」等の説明会を実施しました。また、法務部HPを充実させ、「コンプライアンス」に関する各種情報を随時イントラネット上で提供するなど、全従業員の意識の向上も図りました。



ライトスマート研修 (製造物責任法や表示法を意図した文書作成のための研修)

常にステークホルダーの声を重視し 社会に開かれた企業であり続けるために。

ステークホルダーとの対話促進

企業活動がグローバルに拡大するほど、ステークホルダーも多様化します。住友ゴムグループは、すべてのステークホルダーにご支持をいただき、より大きな社会的責任を果たせる企業へと成長し続けていけるよう、オープンマインドな経営姿勢を貫き、より多くの皆様との対話に努めています。

1 「お客様のために」

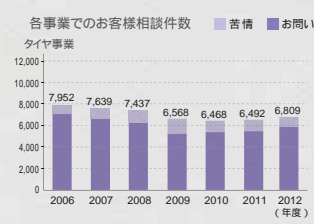
タイヤ事業の取り組み

ダンロップタイヤ営業本部が2001年度に「お客様相談室」を開設して以来、ご相談内容を分析し関連部門に伝えて、品質やサービスのさらなる改善を図っています。2012年度は、タイヤ諸元(各部分の呼び名・寸法)や商品選択に関するお問い合わせ、摩耗に関するご意見など6,819件のお声をいただき、速やかに検討し対応いたしました。

たとえば、寄せられたご意見に従って、カタログに掲載している「ブランド別特性一覧表」をホームページにも掲載し、ネットからも商品特性の違いを容易に確認いただけるように改善



「ブランド別特性一覧表」ホームページ



しました。さらに、お客様をお待たせする時間を短縮するため資料の整理統合を実施し、電話でのお問い合わせ1件当たりの回答時間を前年比15%短縮しました。

今後もホームページの充実を図るとともに、お客様相談室でのさらなる顧客満足度の向上を進めていきます。

スポーツ事業の取り組み

ダンロップスポーツ(株)は、2003年度に「お客様相談室」を開設しました。また、2007年度にゴルフ製品部門で、2008年度にはテニス製品部門で「アフターサービスセンター」を新設し、カスタマーサポート体制を整備・強化しました。

2012年度は、従来通り新製品やイベント・キャンペーン、プロの使用物品に関するお問い合わせのほか、「海外モデルやセモノクラブかどうかの照会」に関するお問い合わせが多く寄せられ、迅速・的確な回答・対応に努めました。今後も専任のスタッフが適切に対応するとともに、お客様の声を新規商品開発や品質改善のほか、広告宣伝、カタログ表記などプロモーション全般にもスピーディに活用していきます。

産業品他事業の取り組み

産業品では、一般向けの手袋・生活用品を販売する(株)ダンロップホームプロダクツが2010年に新ブランド「樹から生まれた手袋」を発売し、お買い上げ1双(1Pair)につき1円

を「1 PAIR for 1 LOVE」というテーマで地球環境保護活動や社会貢献活動に役立てています。2012年度は、マレーシアでの植樹活動・ピンクリボン運動・「イクメン」運動・東日本大震災の復興活動の支援を行いました。また、アースデイ東京に参加し、天然ゴム手袋の環境へのやさしさや社会貢献活動「1 PAIR for 1 LOVE」についてPRを行いました。

さらに、インターネットを利用した情報提供にも力を注いでおり、ホームページをよりわかりやすく充実させるとともに、ツイッターやフェイスブックによる商品情報発信も継続するなど、顧客満足度向上に努めています。



「樹から生まれた手袋」



マレーシアでの植樹



作業技術コンテストの様子

作業技術コンテストを開催

作業事故の撲滅と作業品質の向上を目指し、3回目となる作業技術コンテストを開催しました。乗用車部門とトラック・バス部門に分かれ、全国の選拔者各10名が、実技と筆記の課題に挑戦。特に実技は、乗用車部門はラジアルタイヤとTPMS(タイヤ空気圧監視システム)付きのホイールとの組み込み作業、トラック・バス部門は19.5インチのタイヤを組み込み、点検時には不具合箇所(未告知)を発見するという高度な内容でした。

優勝は、乗用車部門が山本昌利さん、トラック・バス部門が寺田優作さん。ともにダンロップタイヤ四国(株)・タイランド新居浜西店のスタッフです。常日頃、先輩から後輩に技術の伝承を行っていることが、同店のダブル優勝(トラック・バス部門は2年連続)につながりました。

今後も同大会を継続し、全国的な作業品質の向上を図ってまいります。



作業技術コンテストの様子

従業員の声

住友ゴム工業(株)
ダンロップタイヤ営業本部
技術サービス部 課長代理
高橋 信治



ぜひ実現したい、気持ちが通じ合える電話対応

お問い合わせ電話でのお待たせ時間短縮に向け、資料を統合して検索を高速化、場合によっては了解をいただいた上で後程当方より掛け直すよう改善したところ、目標の前年比10%短縮を上回り、13%短縮(3.03分/件)でできました。今後は「感謝していただいたお客様相談室」を指し、素早いだけでなく、気持ちが通じ合える対応を心掛けていきたいと考えています。

接客技術コンテストを開催

同大会は2012年度で7回目を迎え、販社の選拔者10名がお客様の迎え入れから送り出しまで、基本的な接客の流れをロールプレイングで競い合いました。

優勝は、ダンロップタイヤ近畿(株)・タイヤセレクト高槻 水本店長でした。経験に裏打ちされた実力と大会にかける意気込みが相まって、下位に圧倒的な差をつけての優勝となりました。マナーや気遣いなどの基本に加え、商品を平易な言葉でわかりやすく伝えるトークでも技術力の高さが際立ちました。直営店では今後、お客様目線に立った接客を心がけ、ダンロップのファンづくりに取り組んでいきます。



接客技術コンテストの様子

2 「取引先のために」

公正かつ開かれた企業活動で築く確かなパートナーシップ

当グループは、公正かつ開かれた企業活動を理想とし、取引先との確かなパートナーシップを築くために、調達ガイドラインの作成・運用、法令の改正や外部環境の変化などに応じた同ガイドラインの改正などに取り組んでいます。また、サプライヤーからの改善提案(VA提案)や設計段階からの提案(VE提案)を積極的に受け入れています。

さらに、取扱商品が異なるダンロップスポーツ(株)とSRエンジニアリング(株)を除くすべての調達業務で、調達先・調達量・品目などを集約化する集中購買を実施しています。そのメリットを活かし、部品の共通化も進めていきます。

取引先とともに取り組むCSR調達

当グループは、品質・価格・納期だけでなく、コンプライアンスや人権・労働をも包含したCSR調達の推進を目指しています。

2012年には一度に5~10社様をご招待し、ともにCSRについて考え、意見交換を行う場を設け、それを複数回実施することで、CSR活動の輪をサプライチェーン全体に広げることができました。

今後も取引先に対し、CSR活動に関するヒアリングや情報交換の機会を継続的に設けていきたいと考えています。

商品・サービスの改善に活かすお客様の声

当グループは、お客様満足度を向上させるため、各事業所の営業部門や品質保証部門が窓口となって、お客様のご意見・ご要望に適切にお応えし、収集した情報を商品やサービスの改善に活かしています。

また、このの大小に関わらず率直な声をお届けいただけるよう、事業ごとにお客様相談窓口を設置し、お客様からのお問い合わせやクレームに適切に対応しています。



常にステークホルダーの声を重視し 社会に開かれた企業であり続けるために。

国内外に広く開かれた 資料調達のためのウェブサイトでの リバースオークションの強化

広く開かれた資料調達を実現するため、住友ゴムグループは、2004年度、ウェブサイト上にオープン調達システムを立ち上げました。化学物質管理など当社が定めた調達ガイドラインの基準を満たす企業であれば、取引実績の有無を問わず当グループの資料調達オークションに参加できる、オープンな環境を整備しています。ウェブサイトの性格上、海外からの参加も可能であり、グローバルな資料調達の有効な手段になるものと認識しています。

2012年度は、リースや設備工事を中心に合計68件実施しました。2013年度も引き続き、買い手が売り手を選ぶリバースオークション(逆オークション)の利用拡大に努めます。



決算説明会



よこい祭り「KOBE ALIVE2012」に参加



従業員の声
住友ゴム工業 購買部
濱名 昭弘

大きく力を入れていきたい サプライチェーン全体での 取り組み

CSRについて取引先と意見を交換する場を設け、「CSRを意識するきっかけになった」との声が大いに力づけられました。今後ともにCSRの根を張っていくため、講習会等を繰り返し実施していきたいと考えています。

最近では紛争鉱物の使用が問題になっているように、CSRの取り組みもよりグローバル化し、サプライチェーンの源流までたどる必要が出てきています。住友ゴムグループでは、CSR行動規範に基づき、取引先に対して啓蒙活動を継続し、サプライチェーン全体でCSR活動を推進していきます。

3 「株主・投資家の ために」

株主への利益還元の方針

2012年度の株主配当は1株あたり7円増配して30円でした。

住友ゴム工業は、株主への利益還元を最重要課題と認識し、連結ベースでの配当性向、業績の見通し、内部留保の水準などを総合的に判断しながら、長期にわたって安定した配当を実施することを基本方針としています。

内部留保については、将来の収益基盤の拡大を図るため、設備投資や研究開発などの先行投資に活用しています。

株主・投資家との コミュニケーション

住友ゴム工業は、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの機会として、株主総会をはじめ、アナリスト・機関投資家向けの説明会を四半期ごとの決算発表時などに開催し、企業経営や事業活動について説明しています。また、アナリスト・機関投資家向けには、個別ミーティングや取材の場を適宜設けています。

さらに、「IR情報」サイトで、株主総会や機関投資家向け決算説明

会の予定・業績推移などの各種データを開示しているほか、株主総会招集通知・株主通信・決算短信・決算説明会資料・有価証券報告書・アナニュアルレポート(日英)などのライブラリーも充実させています。

また2010年から、毎年9月に個人株主様向けのアンケートを実施。株主様から頂戴したご意見・ご質問に対しては、一部ではありますが、翌年3月発行の株主通信「株主の皆様へ」においてお答えしています。

これからも株主様の声を今後の経営やIR活動に活かしていきます。



アナニュアルレポート



株主通信

社会貢献活動の推進

当グループは、良き企業市民として、全国の各事業所を中心に20年来取り組んでいる地域貢献活動「GENKI活動」に加えて、緑化活動やボランティア活動、NGO・NPOとの協働を通じた地域社会との交流など、全社統一的な社会貢献活動を進めています。今後も、企業行動基準に規定した「会社と社会との関係」の考え方をベースに、積極的な取り組みを進めます。

企業行動基準 - 「会社と社会との関係」

住友ゴムグループは、良き企業市民として社会・地域社会への貢献活動および地球環境保全への取り組みを積極的に進めます。

住友ゴムグループは、「CSR活動基本理念」に基づき、持続可能な社会の実現に貢献し、社会から信用される企業グループを目指します。役員および社員は、住友ゴムグループが地域社会から歓迎され、信頼されるよう、地域社会に密着した社会貢献活動に努めなければなりません。

住友ゴムグループは、環境関連の法令を遵守するのはもちろんのこと、事業活動や提供する製品・サービスが地球全体の環境にできる限り負荷を与えないよう最大限の努力をします。

NGO・NPOとの協働

NGO・NPOとの協働などを通じ、多様なステークホルダーとの交流・対話を推進しています。2012年度は、CSR基金の助成にあたり、兵庫県・東京都・福島県・愛知県・宮城県・大阪府のNPOと協働。また、東日本大震災の復興に向け、現地NPO団体と連携してボランティア活動を行いました。

ほかにも、認定特定非営利活動法人市民活動センター神戸、特定非営利活動法人SEINから従業員向けのボランティア活動情報の提供を受け、また特定非営利活動法人颯爽JAPAN主催のよこい祭り「KOBE ALIVE2012」にも参加しました。

地域の市民活動団体との 対話・協働

地域住民や市民団体との対話は、各拠点の窓口やCSR推進室が主管部署となって実施しています。対話・協働を続けるなかで、必要に応じて安全環境管理部やその他関連部署と調整し、経営会議で内容を審議しています。

2009年度から毎年有識者とのステークホルダーダイアログを継続実施しており、また地域とのコミュニケーション窓口としてはCSR推進室が随時対応し、さまざまなステークホルダーとの対話を推進しています。今後は対話のなかで課題を抽出し、具体的に事業活動に反映させていく仕組みづくりを行ってまいります。

ステークホルダー の声

特定非営利活動法人SEIN
代表理事
湯川 まゆみ 様



ともに手を携え 「協働」の輪を広げています

住友ゴム工業へはCSR基金助成先の推薦とその後のフォローを行い、また、泉大津工場では参加に適した地域のボランティア情報の提供も行っています。2012年度は地域の団体との交流会で、住友ゴム工業CSR推進室担当者、企業を取り組むCSR活動の事例紹介をしていただきました。

SEINは今後も、よりよい団体と企業との「協働」を促すコーディネートをしていきたいと考えています。住友ゴム工業の従業員の皆様も、地域の課題解決や理想の実現に向けて一緒に取り組んでいくパートナーであってほしいと思ひますし、気軽に参加していただければと願っております。

CSR基金

住友ゴム工業は、2009年7月、環境保全・災害支援など、当グループ事業所所在地域固有の社会問題の解決に取り組む団体支援のため、住友ゴムCSR基金を設立。趣旨に賛同した従業員と会社との「マッチングギフト方式」で運営しています。

助成対象地域および助成対象団体数を年々増やし、2012年度は、福島県・東京都・愛知県・大阪府・兵庫県・宮崎県の6地域27団体に計550万円の助成金を拠出しました。



助成先団体の活動

白河工場

所在地 〒961-0017 福島県白河市双石広久保1番地
TEL.0248-22-3311 FAX.0248-22-5689

従業員数 1,646名

操業開始年 1974年

主要製造品目 自動車タイヤ

完全ゼロエミッション達成 2004年



震災により屋外で遊ぶことができない子どもたちに「しぜんとあそぼう in 白河工場」をNPOと協働で開催



白河工場にて回収したエコキャップ(680kg)を福島県に寄付

名古屋工場

所在地 〒471-0837 愛知県豊田市新生町4丁目1番地
TEL.0565-28-2345 FAX.0565-29-3565

従業員数 1,408名

操業開始年 1961年

主要製造品目 自動車タイヤ

完全ゼロエミッション達成 2004年



近隣の子ども会による「めだかの池」を見学する子どもたち



多くの来場者で賑わう消防フェスタで、どんぐりから育てた苗木を無償配布

泉大津工場

所在地 〒595-8650 大阪府泉大津市河原町9番1号
TEL.0725-21-1286 FAX.0725-21-1112

従業員数 451名

操業開始年 1944年

主要製造品目 自動車タイヤ
医療用精密ゴム

完全ゼロエミッション達成 2005年



小学生の登下校時に子どもたちの安全などを見守る、地域の「見守り隊活動」に参加



泉州国際市民マラソンの支援活動として実施した沿道の清掃

(株)ダンロップトレッドサービス

所在地 〒675-1318 兵庫県小野市北丘町355番地9
TEL.0794-63-0543 FAX.0794-63-6510

従業員数 54名

操業開始年 1972年

主要製造品目 更生タイヤの製造・販売

完全ゼロエミッション達成 2010年



江別工業団地内のグリーンアップ活動



「子午線の森」における植樹活動

SRIエンジニアリング(株)

所在地 〒675-0019 兵庫県加古川市野口町水足1960
TEL.079-426-2702 FAX.079-426-2977

従業員数 157名

操業開始年 2003年

主要製造品目 タイヤ生産用
金型の設計、製作

完全ゼロエミッション達成 2008年



事業所構外のゴミ拾い



駐車場の清掃活動

宮崎工場

所在地 〒885-0004 宮崎県都城市都北町3番
TEL.0986-38-1311 FAX.0986-38-4129

従業員数 1,469名

操業開始年 1976年

主要製造品目 自動車タイヤ

完全ゼロエミッション達成 2004年



育てたカブ虫などを持ってきてくれるコーケンジャーは、地元の子どもたちに大人気



地域住民と従業員による絶滅危惧種ヒゴタイの移植活動

市島工場

所在地 〒669-4323 兵庫県丹波市市島町視原5
TEL.0795-85-3000 FAX.0795-85-3002

従業員数 130名

操業開始年 1996年

主要製造品目 ゴルフボール

完全ゼロエミッション達成 2005年



社内菜園で育てたスイカを老人ホームに贈呈



地域の方々を招いてゴルフレッスンを開催

加古川工場

所在地 〒675-0011 兵庫県加古川市野口町北野410-1
TEL.079-424-0111 FAX.079-426-0189

従業員数 446名

操業開始年 1972年

主要製造品目 オフセットプラケット、防振材、OA
機器用精密ゴム部品、ガス用ゴム
管、製振クーパー、医療用精密ゴム

完全ゼロエミッション達成 2005年



近隣の小学生を招いて「ゴムの授業」を開催



近隣の小学生を招いたガス管製造工程の見学

中田エンジニアリング(株)

所在地 〒651-2312 神戸市西区神出町南619番地
TEL.078-965-1015 FAX.078-965-0300

従業員数 129名

操業開始年 1914年

主要製造品目 ゴム製品製造用機械
およびライン設備の設計・
製造・販売

完全ゼロエミッション達成 2008年



「エコ・地球に愛を子どもに愛を、テーマに行った、エコキャップ、プルタブ、ベルマークなどの回収



毎年実施しているバス乗り場清掃活動に加え、新たに迷子バス乗り場の清掃活動を拡大

(株)ダンロップゴルフクラブ

所在地 〒855-0004 宮崎県都城市都北町3番
TEL.0986-38-4679 FAX.0986-27-5026

従業員数 223名

操業開始年 1989年

主要製造品目 ゴルフクラブ

完全ゼロエミッション達成 2006年



都城がボランティアフェスティバルにて、駐車場誘導・整理を実施



道の駅高岡にてタイヤチェック(残溝・傷・空気圧など)を実施

サイトレポート 海外工場

掲載地点(ただし米国・ゴルフクラブ工場を除く)は環境マネジメントシステムISO14001のグローバル統合認証を取得しており、認証番号「YKA4004047」で環境管理体制を一元化しております。

インドネシア工場

P.T. Sumi Rubber Indonesia

所在地 インドネシア チカパンベック市
TEL.62-264-351346 FAX.62-264-351345

従業員数 3,445名

操業開始年 1997年

主要製造品目 自動車タイヤ、
ゴルフボール

完全ゼロエミッション達成 2008年



デング熱発生予防のため実施した、地域における蚊の駆除活動



樹木の寄贈

中国・常熟工場

住友橡膠(常熟)有限公司

所在地 中国 江蘇省常熟経済開発区
TEL.86-512-5269-0502 FAX.86-512-5269-5022

従業員数 2,198名

操業開始年 2004年

主要製造品目 自動車タイヤ

完全ゼロエミッション達成 2006年



従業員による孤児院訪問ボランティア活動



グリーンカーテンの取り組み

中国・湖南工場

住友橡膠(湖南)有限公司

所在地 中国 湖南省長沙市
TEL.86-731-8978-0001 FAX.86-731-8978-0022

従業員数 453名

操業開始年 2012年

主要製造品目 自動車タイヤ

完全ゼロエミッション達成 2009年



公園の清掃活動



工場外周の清掃活動

タイ工場

Sumitomo Rubber (Thailand) Co., Ltd.

所在地 タイ ラヨーン県アマタシ工業団地
TEL.66-38-953-000 FAX.66-38-953-021

従業員数 4,409名

操業開始年 2006年

主要製造品目 自動車タイヤ

完全ゼロエミッション達成 2009年



全員で海岸のクリーンアップを実施



近隣のお寺を訪問し行った奉仕活動

タイ・天然ゴム加工工場

Sumirubber Thai Eastern Corporation Co., Ltd.(STEC)

所在地 タイ ウドンタニ県ウドンタニ市
TEL.66-42-130-199 FAX.66-42-130-200

従業員数 316名

操業開始年 2010年

主要製造品目 天然ゴム加工品

完全ゼロエミッション達成 2013年



工場周辺の清掃



地域の熱い場の整備工事への寄付

中国・中山工場

中山住膠精密橡膠有限公司

所在地 中国 広東省中山市中山火炬高新技术产业開発区
TEL.86-760-85314773 FAX.86-760-85598924

従業員数 472名

操業開始年 2001年

主要製造品目 OA機器用
精密ゴム部品

完全ゼロエミッション達成 2008年



図書の寄贈



工場周辺のゴミ拾い活動

ベトナム工場

Sumirubber Vietnam, Ltd.

所在地 ベトナム ハイフォン市 アンズオン地区
TEL.84-31-3743270 FAX.84-31-3743272

従業員数 558名

操業開始年 2007年

主要製造品目 OA機器用
精密ゴム部品

完全ゼロエミッション達成 2009年



バラ植栽の緑化活動



植樹活動

マレーシア工場

Sumirubber Malaysia Sdn. Bhd.

所在地 マレーシア ケダ州スンガイベタニ市
TEL.60-4-4213121 FAX.60-4-4213123

従業員数 622名

操業開始年 1981年

主要製造品目 ゴム手袋

完全ゼロエミッション達成 2010年



工場周辺の清掃作業



工場内の植樹活動

タイ・テニスボール工場

Srixon Sports Manufacturing (Thailand) Co., Ltd.

所在地 タイ プラチンプリ県カンプリ市
TEL.66-3720-4868 - 71 FAX.66-3720-4872

従業員数 306名

操業開始年 2007年

主要製造品目 テニスボール

完全ゼロエミッション達成 2011年



地元地域での植樹活動



こどもの日に地元小学校に寄付

米国・ゴルフクラブ工場

Roger Cleveland Golf Company, Inc.

所在地 米国カリフォルニア州 ハンティントンビーチ
TEL.1-714-889-1300 FAX.1-714-889-5890

従業員数 290名

操業開始年 1982年

主要製造品目 ゴルフクラブ



紙リサイクル強化の活動ポスター



当社が実施しているジュニア向けGolf Clinic Eventに向かう子どもたち



住友ゴム工業株式会社 代表取締役専務執行役員

田中 宏明

PROFILE

1976年当社入社。2000年当社産業企画部長。
2003年当社執行役員。2007年当社取締役常務執行役員。
2011年当社代表取締役専務執行役員就任。現在。

ステークホルダー オピニオン

Stakeholder Dialogue

有識者から見た住友ゴムグループ

ステークホルダー ダイアログ



神戸大学大学院 経営学研究科 教授

國部 克彦氏

PROFILE

大阪市立大学大学院修了。
博士(経済学)。大阪市立大学、神戸大学助教授を経て、2001年より現職。
近著に、「環境経営意思決定を支援する会計システム」中央経済社、
「実践マテリアルフローコスト会計」産業環境管理協会 など。

これからの 住友ゴムグループに 求められるもの

2013年3月26日、
神戸大学大学院の
國部克彦氏をお招きし、
住友ゴムグループのCSRへの対応や
報告書のあり方などについて
ご意見をお聞きました。

大きな特徴となっている 従業員に対する諸施策

國部 昨年から本誌掲載の第三者意見も担当させていただき、網羅的かつ誠実な活動ぶりが反映されたしっかりしたCSRレポートであると認識しています。CSRは、近年は細かな社会的責任の問題一つひとつに取り組み、責任を遂行できればよいという捉え方もなされています。しかし、発祥の地であるヨーロッパなどでは、経営戦略全体のなかにCSRを統合していくことが重要視されています。また、CSRを推進しているオピニオンリーダーの多くは、昨今の世界経済の不安定な状況を克服するためにも、CSR的な精神が必要だと考えています。経済不安や金融不安の根底には、リスクの高い投資に走り破綻へとつながっていく短期思考や、格差拡大によって市場の購買力をしばませ勝者を含めた世界全体を貧困へと導く、行き過ぎた利益追求があります。CSRの精神に従えば、これらにしっかりと歯止めをかけることができるというわけです。

こうした観点から御社のCSRレポートを拝見してみて特徴的だと感じたのは、「従業員の意識を啓発してCSRを推進しよう」という姿勢です。これは大変重要なことです。というのも、CSRの精神の根本にある道徳は、いろいろ学問上の議論はあるものの、究極的には会社を構成する従業員一人ひとりが担っていくしかないものだからです。会社は心というものを持ちませんから、道徳を担うのは実際には不可能です。そのため従業員の意識啓発が大きな意味を持つてくるのです。この点御社は、トップの見解が明確で、従業員も自発的にさまざまな活動に取り組んでおられます。

田中 大所高所からうれしい評価をいただき、ありがとうございます。私は入社して37年になります。年を重ねるほどに「住友ゴム工業という会社はまじめな会社だ」という実感を強くしています。会社の運営には経営戦略と現場オペレーションという二本柱がありますが、特に現場オペレーションをまじめに着実にやるのが当社の特徴であり強みだと思います。

その背景には、かつては基本理念として、今は「住友ゴムWAY」における価値観の第一として掲げる、「信用と確実」というキーワードがあります。「信用」とは、個人的な口約束から憲法に至るまで、約束はすべて必ず守ることによって築くもの。「確実」とは、常に現地現物で事実に基づいた仕事をすることによって実現するもの。この二つを大切にしないとというのが、連続と引き継がれてきた先人の教えです。われわれも後輩たちに対し、職場や研修など機会があるごとにそういう話をしています。そうしたなかでの日々の積み重ねが、ご指摘いただいたボトムアップ的なCSRの精神に結びついているのではないかと思います。

國部 大変重要なことです。価値観を共有するために、社内のコミュニケーションを、とても大切にしておられる。

田中 コミュニケーションは従業員の満足度に直結しています。われわれは2年に1度、仕事や会社に対する意識や満足度について従業員アンケートを実施して、部門別にスコアを出すのですが、これにもその関係は明らかです。いいスコアが出ている部門はライン管理がしっかりしていてコミュニケーションがよくなっています。逆に部下任せになり過ぎていたり上下間で距離があり過ぎたりする部門はコミュニケーションが悪くなり、満足度のスコアも伸びません。改善のためにはいかにコミュニケーションをよくなっていくかを考えればよく、その効果も歴然としています。

國部 従業員に関する施策といふことでいえば、CSRにおける一般的傾向としては労働時間や報酬、女性の管理職登用などが注目されますが、これらについてはいかがですか？

田中 労働時間に関しては、かつては慢性的な人手不足による増加傾向がありました。1995年の阪神淡路大震災以降、会社として苦しい時期が続き、その後1999年にグッドイヤーとの提携、2003年にはオートタイヤとの合併など、生き残りをかけて再編を行ってきたために、10年間にわたって採用を抑えてきました。しかし、2004年頃からは採用を増やし、労働組合とも協調して、労働時間短縮に取り組んできました。報酬面の制度も見直しを進め、賞与も業績に応じて増額するなど、

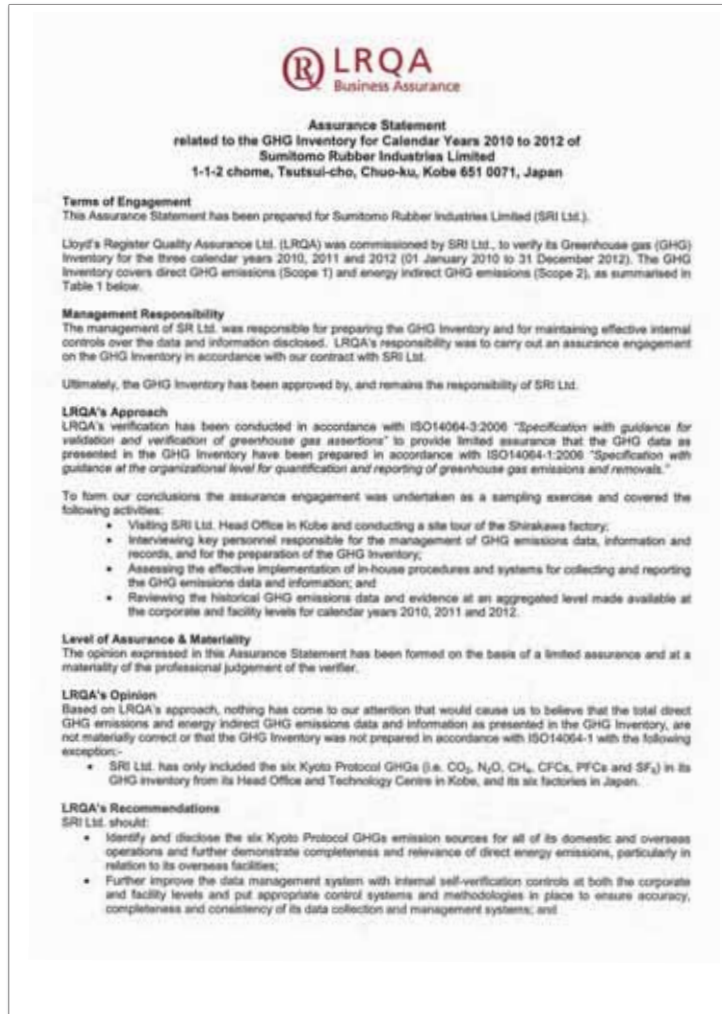
第三者検証報告書

本報告書およびWeb開示の環境報告データの信頼性を高めるために第三者機関による検証を受けました。

「*」のマークは、検証の対象データです。

この検証の対象データと検証基準は次の通りです。

1. グローバルCO₂排出量およびその原単位
基準：ISO14064-1
2. 国内工場の水使用量、排水量、廃棄物発生量とそれらの原単位
基準：LRQA s Report Verification (ISAE3000, AA1000AS, GRIに準拠)



第三者意見



神戸大学大学院
経営学研究科 教授
國部 克彦氏

大阪市立大学大学院修了。博士(経営学)。大阪市立大学、神戸大学助教授を経て、2001年より現職。近著に、『環境経営意思決定を支援する会計システム』(中央経済社)、『環境経営・会計』(有斐閣)などがある。

グローバル企業としてのCSRの推進

住友ゴムグループは、池田社長の冒頭の言葉にもあるように「真のグローバルプレーヤーを目指す」ことを目標に活動を推進してまいります。CSR報告書においても、それを反映して、タイの新工場における完全ゼロエミッションの達成、マレーシアでの水質浄化活動、海外での緑化活動、グローバル環境経営の推進などが詳しく説明されており、積極的な活動を推進されていると高く評価することができます。グローバルレベルでのCSR活動は、世界で活動するすべての企業にとって非常に重要な課題です。住友ゴムグループは大きな成果を上げておられると思います。今後はこのようなグローバルな活動のなかで個別に展開されているプロジェクトについても、全社的な環境目標やCSR目標の中に位置づけて、グローバルCSRマネジメントとして展開して頂きたいと思います。

積極的な環境保全活動

住友ゴムグループは、CO₂排出量の削減、循環型社会の形成、環境配慮製品の開発、緑化活動などを中心に、積極的に環境保全活動を進めてまいります。経済環境の変化等により、一部目標未達成の項目はありますが、着実に活動を進められていることが理解できます。住友ゴムグループは、環境への負荷が比較的広範囲(生態系から温暖化まで)にわたる業界に分類されると思いますので、それだけに一層、環境への対応は特に強く求められることとなります。そのためには、新しい技術の開発とサプライチェーンを含めた広範囲の協力的な活動の展開が、今後の鍵になると思います。

人材育成とコミュニケーションの充実

人材育成や多様なステークホルダーとのコミュニケーションの充実も、住友ゴムグループのCSR報告書の大きな特徴です。人材を育成して、働きがいのある職場をつくることはCSRの最も重要な課題ですが、この面で住友ゴムグループは積極的な活動をされていると評価することができます。また、社内・社外でのステークホルダーとのコミュニケーションを重視して、「常にステークホルダーの声を重視し、社会に開かれた企業であり続ける」ことを目指されている姿勢も大変重要です。今後も、グローバル化が一層促進すると思いますが、グローバル化が促進すればするほど、企業が価値を生み出す源泉であるローカルが重要な意味を持つようになります。グローバル化を促進しながら地域との連携を強化することは、グローバル企業のCSR活動として非常に重要ですので、一層の発展を期待しています。

第三者意見を受けて

國部先生にはステークホルダーダイアログに続いて貴重なご意見を頂戴し、心よりお礼申し上げます。環境保全の分野に加え、人材育成や様々なステークホルダーに対する姿勢・コミュニケーションなど、なかなか自己評価が難しい分野でアドバイスも含めて一定の評価をいただけたことで、今後さらに充実に向けた努力を重ねたいと思います。

一方で、新しい技術開発はもとより、サプライチェーンも含めたCSR活動や、さらにグローバルな観点での地域交流・連携を進めることなど、ご指摘をいただいたグローバルCSRマネジメントを各分野でより強く意識し、目標をできる限り明確にして取り組みを進めることを心掛けてまいります。



CSR推進室長 北条 敏明

読み方ガイド

住友ゴムグループは、より良い社会の構築に向けた企業の社会的責任を果たすことを通じ、社会から信用され存続を望まれる企業グループとなることを目指しています。2008年2月に「CSR活動基本理念（P4参照）」を制定し、7月には専任組織として「CSR推進室」を設置、当グループCSR活動のけん引役として、関係部門との連携を強化して取り組みを推進しています。

*「第三者検証の対象データ」
「2012年度の活動と2013年度の目標」詳細は、Webサイトに掲載しています。



CSRガイドライン 2012年度の活動と2013年度の目標(主要項目抜粋)

CSRガイドライン	Plan 2012年度目標	Do 2012年度活動実績	Check 自己評価	Action 2013年度目標
Green Green initiative	① 森づくりを通じた地球温暖化防止への貢献	各事業所の生物多様性対応(ピトープ他)	100%	各事業所の生物多様性対応(ピトープ他)
	② 森づくりを通じた地域との交流	毎年2万本以上を植樹	100%	どんくろプロジェクトの推進 毎年2万本以上を植樹
Ecology Ecological process	① CO ₂ 排出量の低減*	国内6工場 原油換算エネルギー使用量原単位 2000年度比11%以上削減	93%	2000年度比9%以上削減
	② グローバル環境経営の推進	国内6工場 ¹⁾ 生産におけるCO ₂ 排出量を1990年度比14%以上削減	95%	排出量を1990年度比13%以上削減
		国内6工場 ²⁾ 廃棄物発生量2000年度比25%以上削減	89%	有償を除く廃棄物排出量原単位を2011年度比5%以上削減
		国内外全製造拠点) 埋立廃棄物量の削減 完全ゼロエミッション ¹⁾ の継続	100%	完全ゼロエミッション ¹⁾ 継続 STECで完全ゼロエミッション達成
		国内6工場 マテリアルリサイクル率 82%以上向上	100%	マテリアルリサイクル率85%以上
		国内タイヤ部門 ²⁾ 有機溶剤総排出量を2000年度比59%以上削減	100%	総排出量を2000年度比81%以上削減
Next Next-generation product development	① 環境配慮商品の開発	—	—	100%石油外天然資源タイヤの上市
	② 「安全・快適」「経済性」「品質」の追求	—	—	「ADVANCED 4D NANO DESIGN」の技術開発の推進
Kindness Kindness to employees	① 人材育成と働きがいの向上	グローバル人材育成	100%	中途研修体系の整備
	② 安全で働きやすい職場づくり	ワークライフバランスイベントの開催	100%	ワークライフバランスイベントの開催
Integrity Integrity for stakeholders	① コーポレート・ガバナンスの充実	その他事業所のBCP策定	88%	加古川工場の地震BCP策定 海外事業所の重要リスク選定と要因分析
	② コンプライアンスの徹底	サプライチェーンでのCSR推進	100%	サプライチェーンでのCSR推進

1 完全ゼロエミッション：埋立廃棄物の量をゼロ、再資源化率100%(当社では再資源化目的で処理された廃棄物の全量を再資源化量とします)
2 国内タイヤ4工場、国内タイヤ部門：白河工場、名古屋工場、泉大津工場、宮崎工場
3 自己評価の計算方法：基準年比(1-削減率)を用いて次の通り計算しています。(1-| $\frac{\text{目標基準年比}-\text{実績基準年比}}{\text{目標基準年比}}$ |) × 100%

CSRレポート

当報告書は、住友ゴムグループのCSRガイドラインである「Green(緑化)」、「Ecology(事業活動の環境負荷低減)」、「Next(次世代型技術・製品の開発)」、「Kindness(人にやさしい諸施策)」、「Integrity(ステークホルダーへの誠実さ)」の5つの柱を組みを基本に、2012年度の主な活動を報告しています。重要な情報や新しい取り組みを前半の「重点報告」に、基本的な活動を後半の「CSR活動報告」に掲載しています。

- 読み方のポイント**
- 今年度の活動報告をご覧いただく前に、「住友ゴムグループの理念とCSRの考え方」(P3~4)をお読みください。当グループのCSR活動に対してより深く理解いただけるように、当報告書の編集の柱でもあるCSRガイドライン「GENKI」の位置づけが解説されています。
 - CSR活動のハイライトをお知りになりたい方は、重点報告 P5~14 をお読みください。CSRガイドライン「GENKI」に沿って1つずつ特徴的な事例を紹介していますので、「GENKI」が意図する取り組みの主旨も具体的にご理解いただけます。
 - 中長期的な展望を含めた当グループのCSR活動に対する姿勢をお知りになりたい方は、トップコメント(P15~16)をお読みください。当グループを代表して、社長が自身の言葉で皆様へのメッセージをお伝えいたします。
 - CSR活動報告(P17~36)やステークホルダーダイアログ(P41~44)など、本報ではさまざまな取り組み報告や当グループの活動への評価が掲載されています。ご興味のあるパートをお読みください。
- 表現上の工夫**
- より多くの皆様にご覧いただけるよう、写真中心の親しみやすいデザインと簡潔な文章を心がけました。
- 取り組みの結果のみならず、実践した社員や関係者の方々の思いをお伝えできるように、インタビューや当事者による原稿作成に努めました。
- さらに詳しい内容をお知りになりたい皆様のために、各活動報告のWeb掲載ページを明記しました。

各媒体の位置づけ

随時更新される詳細情報を掲載するWebサイトと、年次の活動の要点をまとめたCSR報告書を発行。あらゆるステークホルダーの皆様に関われたCSRレポートを目指すと同時に、読みやすく、わかりやすい報告書づくりに努めています。



ステークホルダーエンゲージメント

2012年度のステークホルダー・従業員からの声「CSR報告書2013 P17~36」とステークホルダーダイアログ「CSR報告書2013 P41~44」、各種アンケート調査よりいただいたステークホルダーの皆様からのご意見をもとに、新たにCSR目標を設定しました。今後、この表を充実するとともに、各CSR目標の達成に向けた取り組みの結果を本レポートにてお伝えしていきます。

2012年度ステークホルダーエンゲージメントによるCSR目標

活動側面	報告側面
Green 今後策定	今後策定
Ecology 取り組みのグローバル化を促進しながら、地域との連携についても強化する。	今後策定
Next 今後策定	「技術」の製品への活かされ方を報告する。走行性能、快適性能、静粛性能、低燃費性能等、「お客様がタイヤに求める性能」を報告する。使用条件に近いテスト環境の改善・向上について報告する。
Kindness 管理職と従業員のコミュニケーションを促進する。女性従業員の管理職ポストへの積極採用を図る。海外への若い人材の積極登用、現地での人材育成を図る。従業員向けCSR啓発ツールを作成・運用する。	「問題を掘り下げる」強化研修等の受講者アンケート結果をもとに、その効果を報告する。中国市場における事業展開・CSR活動の状況を報告する。女性の採用・登用について報告する。
Integrity 新しい技術の開発とサプライチェーンを含めた広範囲の協力的な活動の展開。ホームページQ&Aの見直し内容をカタログ等のお客様向けツール制作に活かしていく。	ホームページQ&Aの見直し内容を報告する。製品紹介の際は、ホームページへ誘導する。子ども向け報告書を作成する。

ステークホルダー・従業員からの声「CSR報告書2013 P17~36」とステークホルダーダイアログ「CSR報告書2013 P41~44」、各種アンケート調査の総括。

住友ゴムグループCSR報告書2013概要

編集方針

住友ゴムグループは「CSR活動基本理念」で定めた「CSRガイドライン」である「GENKI」の5項目(P4参照)に基づいてCSR活動を推進しています。本報告書は、その2012年度の活動結果をまとめたレポートです。当グループのCSR活動の重要なポイントとなる報告事項を読者の皆様へわかりやすく伝えるために、冊子巻頭を「重点報告」と題して、特別編集しました。

本報告書では取り上げなかった企業としての基本的で普遍的な取り組みやさらに詳しい結果情報は、当社Webサイトの「CSRの取り組み」において報告しています。

報告事項について

本報告書は、ステークホルダーの皆様が当グループのCSR活動の状況の評価するにあたって影響度が高いと考えられる重要情報「マテリアリティ」を取り上げています。マテリアリティは、当社が2011～2012年度に実施した各種アンケート調査の結果をもとに選定しています。

サプライヤー-CSRヒアリング調査 CSR報告書読者アンケート調査(従業員・取引先・内定者) CSR報告書オンライングループインタビュー調査 従業員アンケート調査 消費者総合調査 個人株主アンケート調査 の6種

マテリアリティ：当グループのCSR活動の状況の評価するにあたって影響度が高いと考えられるテーマ
CSRガイドライン「GENKI」の5項目に含まれる13指標 ● は重点報告で取り上げたテーマ

ステークホルダーとの対話促進

- 取引先：安全・衛生(リスクと安全対策) 人権・労働(労働時間と賃金) 公正な取引(SCMの観点から)
- 消費者・顧客：マーケティングコミュニケーション
- 株主・投資家：情報の開示

人材育成と働きがいの向上

- 教育・啓発

安全で働きやすい職場づくり

ステークホルダーとの対話促進

- 取引先：情報の開示および管理 公正な取引(組織と仕組み) 人権・労働(各種ハラスメント)

社会貢献活動の推進

- 地域社会への貢献

読者対象
お客様、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会、一般生活者、NPO-NGO、行政など

対象組織
住友ゴム工業㈱、ダンロップスポーツ㈱の国内6工場を中心に一部、国内外の拠点や関係会社

対象期間
2012年度(2012年1月1日～2012年12月31日、一部期間外の情報を含みます)

発行日
2013年6月(次回発行予定:2014年6月)

参考にしたガイドライン
GRK(Global Reporting Initiative)「サステナビリティレポートガイドライン第3版」環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」

第三者意見
報告書に対する客観的な評価を取り入れていくために、識者からの意見を掲載しました。(P46参照)

「安全・快適」「経済性」「品質」の追求

環境配慮商品の開発

CO₂排出量の低減

森づくりを通じた地球温暖化防止への貢献

森づくりを通じた地域との交流

グローバル環境経営の推進

ワークライフバランスの推進

コーポレート・ガバナンスの充実

コンプライアンスの徹底

経営マネジメント

住友ゴムグループにとっての重要情報

印刷での環境配慮

用紙での配慮

印刷での配慮

森の町内会
www.moncho.org

ミックス
FSC® C013238

印刷工程では、有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。

印刷インキには、揮発性有機化合物(VOC)含有量少ない大豆油のNon-VOCインキを使用しています。

住友ゴムグループの事業展開

タイヤ事業

DUNLOP FALKEN GOODYEAR

住友ゴム工業が中心となり、「ダンロップ」「ファルケン」「グッドイヤー」をメインブランドとする乗用車用、トラック・バス用、モーターサイクル用など各種のタイヤを先進の環境技術を駆使して国内外に提供しています。

生産工場：白河、名古屋、泉大津、宮崎、中国、インドネシア、タイ、ブラジル
製造会社：連結子会社9 関係会社7 販売会社：連結子会社21 関係会社7
タイヤテストコース：岡山、名寄、旭川 研究施設：タイヤテクニカルセンター

スポーツ事業

XXIO SRIXON Cleveland

ダンロップスポーツ㈱が中心となり、ゴルフ用のクラブやボール、テニス用のラケット、ボールなどを製造・販売しています。基幹ブランドの「XXIO(ゼクシオ)」、世界戦略ブランドの「SRIXON(スリクソン)」に加え、米国内で生まれたブランド「Cleveland Golf(クリーブランドゴルフ)」で、世界展開を進めています。

生産工場：市島、宮崎、インドネシア、タイ、米
販売会社：連結子会社15 関係会社2 製造会社：連結子会社4 関係会社1
研究施設：ゴルフセンター

産業品・その他事業

Hibrid-Turf MIRAIE Gripcoat

住友ゴム工業のハイブリッド事業本部が中心となり、OA機器用精密ゴム部品、制振ダンパー、スポーツ用人工芝、塗床、車いす用可搬形スロープ、ゴム手袋、ガス管、印刷用ブランケット、防酸材、止水ゴム、医療用ゴム栓などを製造・販売しています。海外では、マレーシアで天然ゴム手袋の中国、ベトナムでOA機器用精密ゴム部品の工場が稼働しています。生活用品から産業用資材まで多種多様な商品を提供しています。

生産工場：加古川、泉大津、マレーシア、中国・中山、ベトナム
製造会社：連結子会社3 関係会社1 販売会社：連結子会社3

グループ概要 (2012年12月末現在)

社名	住友ゴム工業株式会社
本社所在地	〒651-0072 神戸市中央区臨浜町3-6-9
創業	1909年
資本金	427億円
連結売上高	7,102億円(2012年12月期)
連結従業員数	23,507名
グループ連結子会社数	65社(うち国内30社)
グループ関係会社数	27社(うち国内14社)

売上高(連結)の内訳

事業セグメント別

- 産業品・その他事業: 4.2%
- スポーツ事業: 8.6%
- タイヤ事業: 87.2%

地域別

- 日本: 52.7%
- アジア: 16.5%
- アメリカ: 11.4%
- ヨーロッパ: 8.3%
- その他: 11.1%

グローバルネットワーク

ヨーロッパ・中近東・南アフリカ 連結子会社6社・関係会社1社

日本 連結子会社30社・関係会社14社

北米・中南米 連結子会社7社 関係会社4社

アジア・オセアニア 連結子会社22社 関係会社8社

売上高(連結)の内訳

2008-2012(年) 売上高(億円)

年	2008	2009	2010	2011	2012
連結	3,211	2,454	5,245	6,045	7,102
単体	257	287	476	539	697
営業利益	148	200	214	284	355
経常利益	148	200	214	284	355
当期純利益	148	200	214	284	355

総資産・自己資本・自己資本比率(連結)

2008-2012(年) 総資産・自己資本(億円)

年	2008	2009	2010	2011	2012
総資産	1,809	1,870	1,897	1,977	2,442
自己資本	283	305	305	294	331
自己資本比率(%)	15.6	16.3	16.1	14.9	13.5